

## GX8 グラフの作画方法

(例) 接続先の PLC を三菱社製 Q シリーズとした

目次:

1. ログファイルの設定
2. グラフオブジェクトの作成
3. トレンドグラフの作成
4. ロググラフの作成
5. SD カードへ保存
6. USB メモリへの手動保存
7. PC への手動保存(ログファイルのアップロード)

## 1. ログファイルの設定

### 1-1. ログ用の GX8 メモリエリアを設定します。

[プロジェクト]タブに表示を切り替え、右側の[プロパティ]をクリックします。

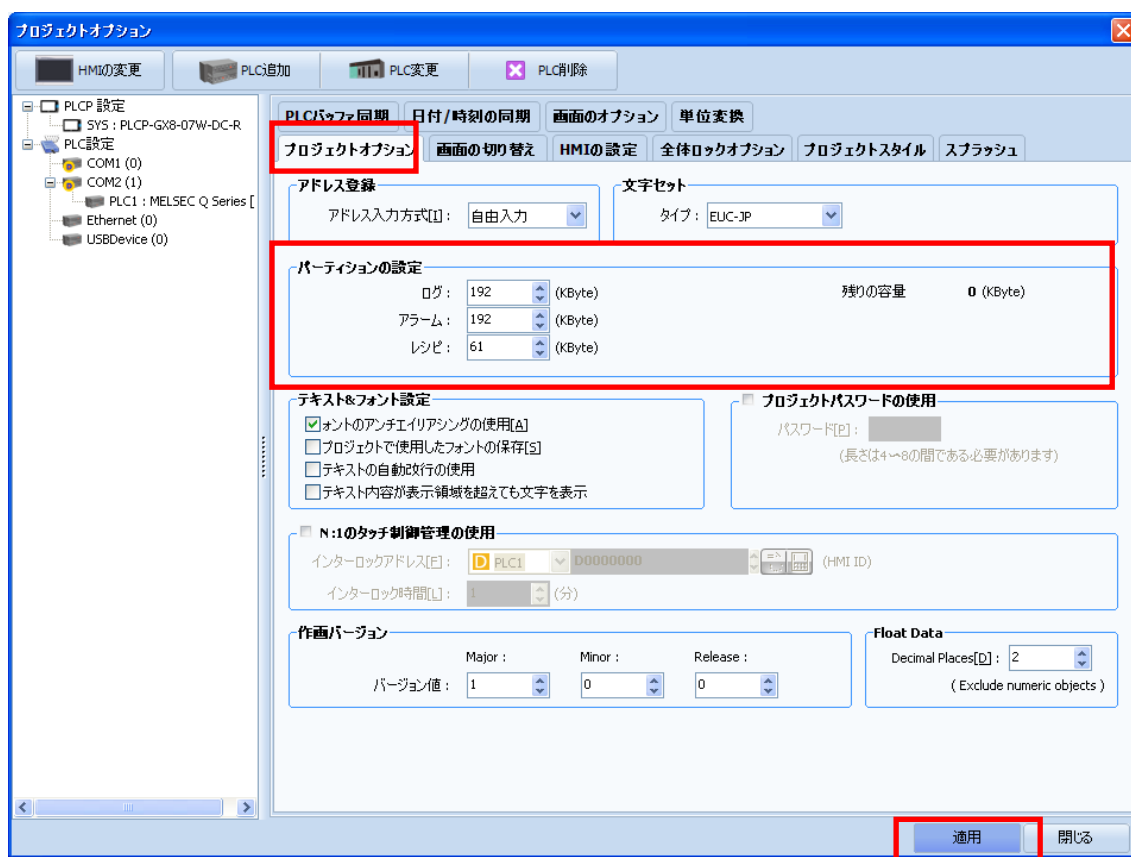


[プロジェクトオプション]画面の[プロジェクトオプション]タブにある[パーティションの設定]のログの容量を設定します。(GX8 のバックアップメモリ合計は 445KB です。)

詳細は、[GX8 Designstudio\\_Manual\\_Japan.pdf](#) マニュアルの P153[ログメモリの設定]を参照

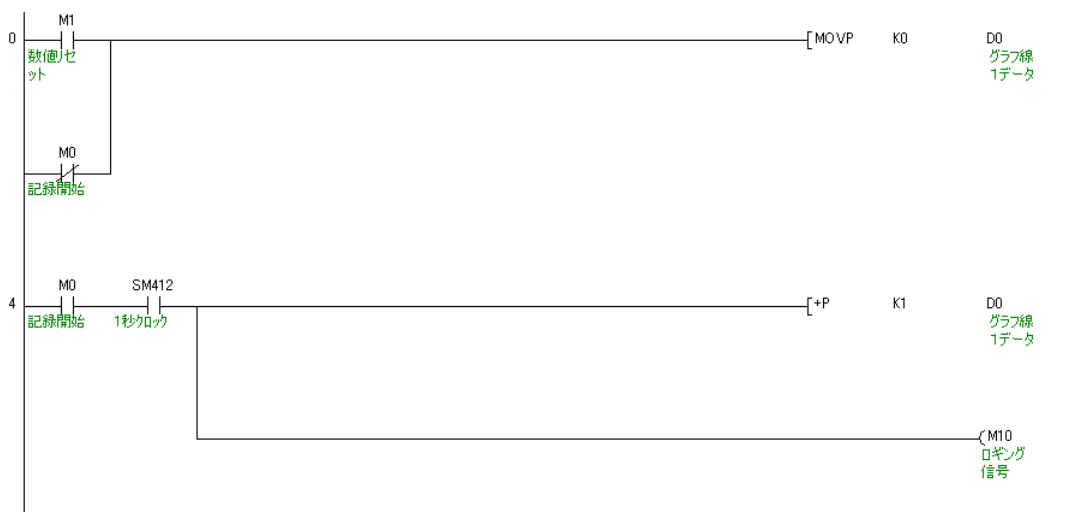
例)では、ログ:192KB で設定

「適用」ボタンをクリックし、画面を閉じます。



## 1-2. ログの設定

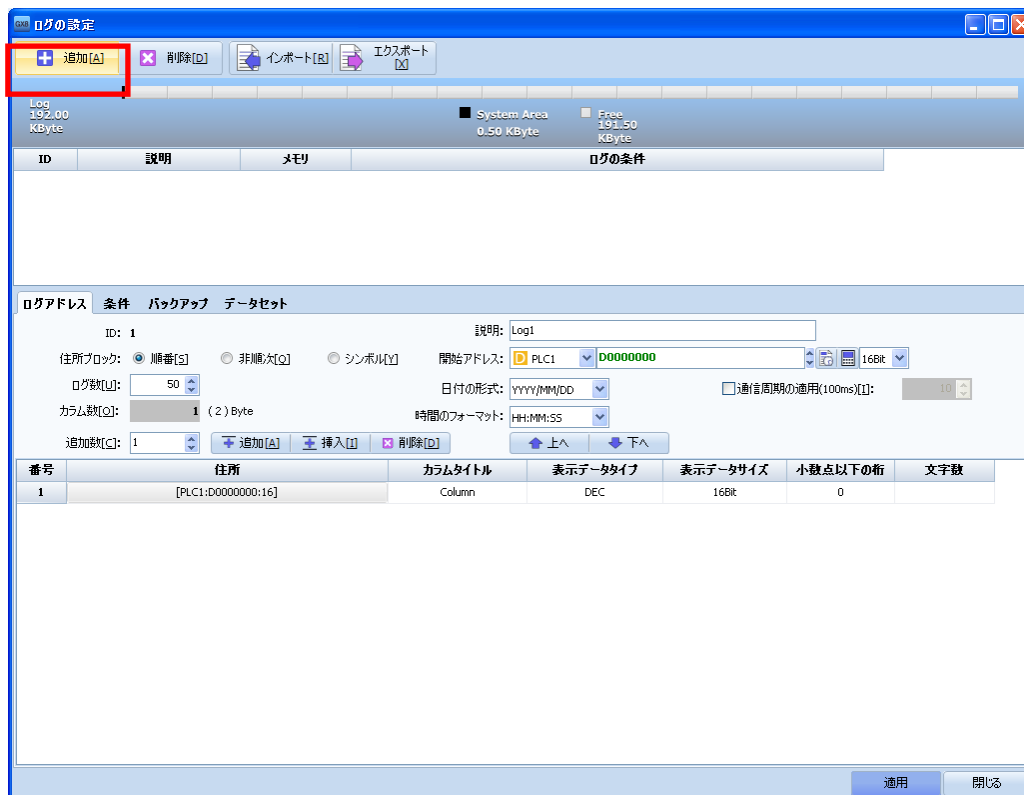
(例)PLC のラダーを下図のようにした場合



[プロジェクト]タブに表示を切り替え、左側の[ロギング]をクリックします。



[ログの設定]画面で、「追加」をクリックします。



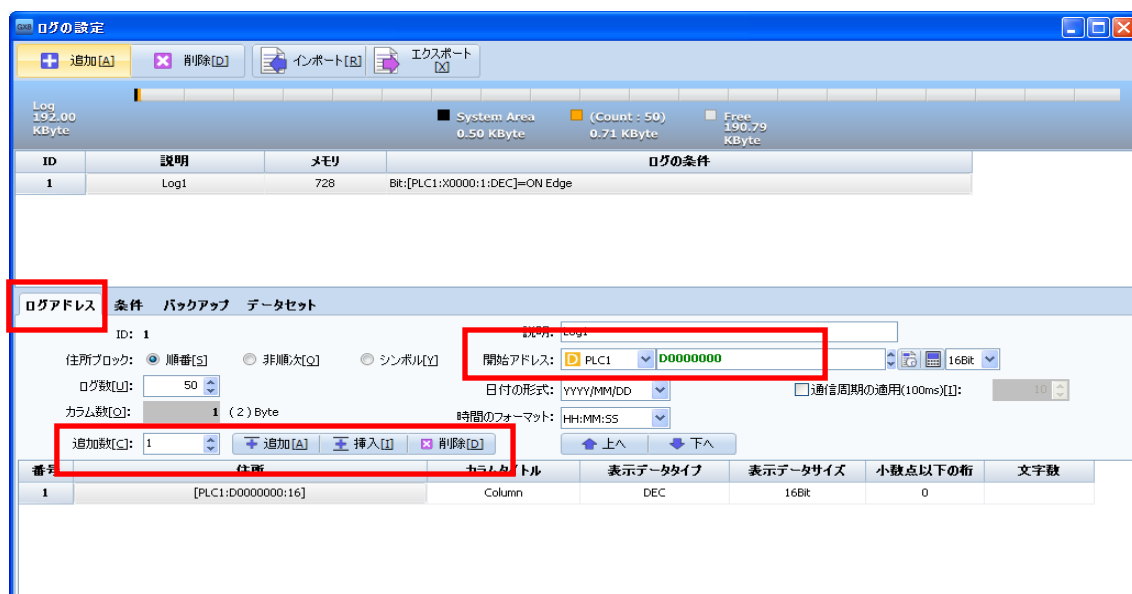
ログ「ID1」が追加されます。

ログデータを格納するアドレスを[開始アドレス]に設定します。

複数点アドレスを追加する場合は、「追加」ボタンをクリックします。

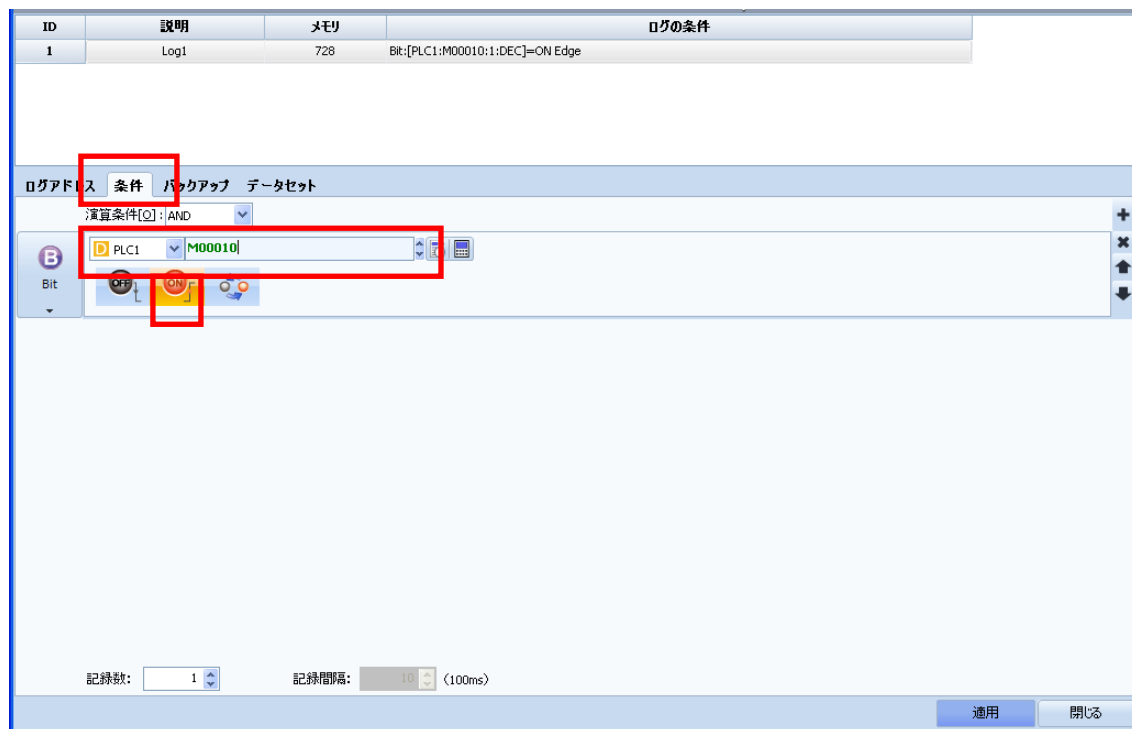
詳細は、GX8 Designstudio\_Manual\_Japan.pdf マニュアルの P155[4.2.1 ログアドレスページ]を参照

(例)開始アドレス: PLC アドレス「D0」



[条件]タブに切り替え、データを記録する条件を設定します。

(例)PLC アドレス「M10」が ON したときデータを記録



[バックアップ]タブに切り替え、保存場所を SD カードに設定します。

GX8 より直接外部メディアへ保存可能な媒体は、SD カードのみとなります。

(USB メモリや PC への保存は、手動にて行うことが可能です。)

詳細は、GX8 Designstudio\_Manual\_Japan.pdf マニュアルの P162[4.2.3 バックアップページ]を参照

ログデータの保存イメージ:

ログデータの記録信号 ON→GX8 メモリエリアに格納→GX8 メモリエリアからあふれたデータ  
(もしくは、手動にて)→SD カードへ格納

※SD カードに格納されたログデータは、GX8 メモリエリアから削除されます。

GX8 メモリエリアがいっぱいになると、古いファイルから上書き削除されます。

[ログファイル名オプション]では、SD カードに保存されときの CSV ファイル名を設定します。

「適用」ボタンをクリックし、ログ設定画面を閉じます。

The screenshot shows the 'Log Settings' window in GX8 Designstudio. The 'Backup' tab is active. The 'Save to' dropdown is set to 'SD Card'. The 'Delete old log files' section is set to '30 (%)'. The 'Log file name options' section is highlighted with a red box, showing the file name '2019-03-07\_LOG001\_000001\_USER.CSV' and the user-defined name 'USER'. The 'Apply' button is also highlighted with a red box.

| ID | 説明   | メモリ | ログの条件                           |
|----|------|-----|---------------------------------|
| 1  | Log1 | 728 | Bit:[PLC1:M00010:1:DEC]=ON Edge |

ログアドレス 条件 バックアップ データセット

保存媒体: ☒ SD Card ☐ なし

古いログファイルを削除する単位: 30 (%)

バックアップ条件

☐ バックアップ条件の使用 ☒ ログファイル名の変更時に生成

Log1 PLC1 X0000

Bit OFF ON OFF ON

ログファイル名オプション

ログファイル名: 2019-03-07\_LOG001\_000001\_USER.CSV

ユーザー定義の名前: USER

☐ HMI別名を含む

☐ 分割保存(アドレス値の変化時にファイルを保存)

☒ 文字 ☐ 数字 文字数: 2

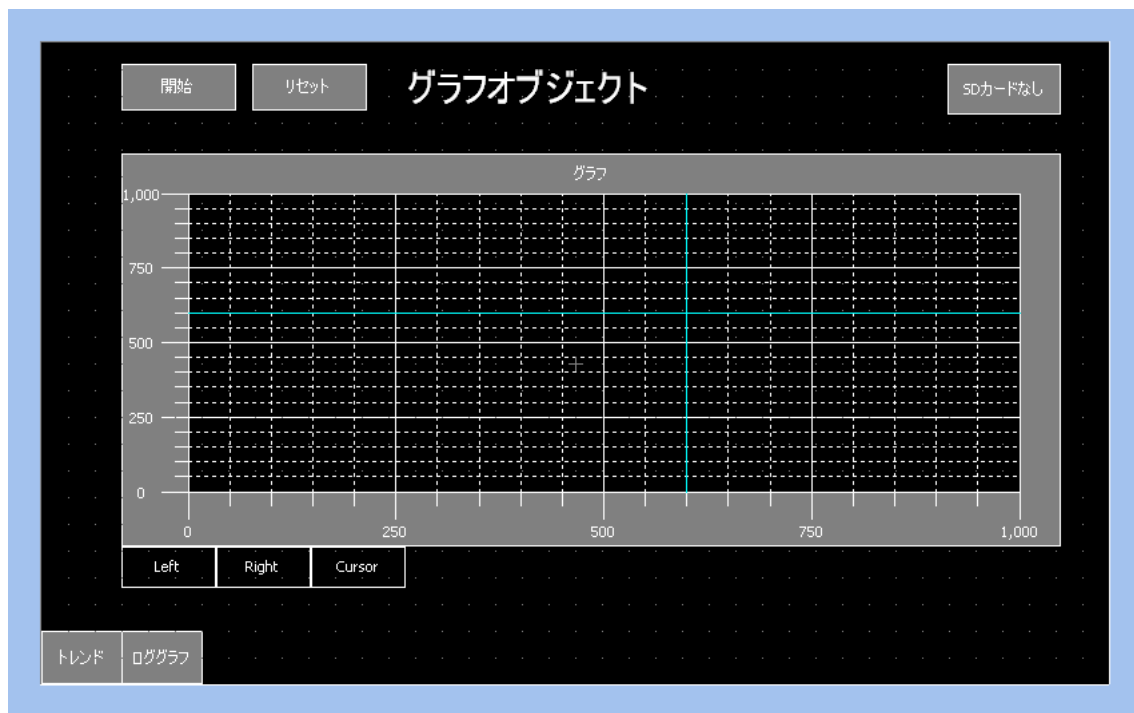
LATCH 000

適用 閉じる

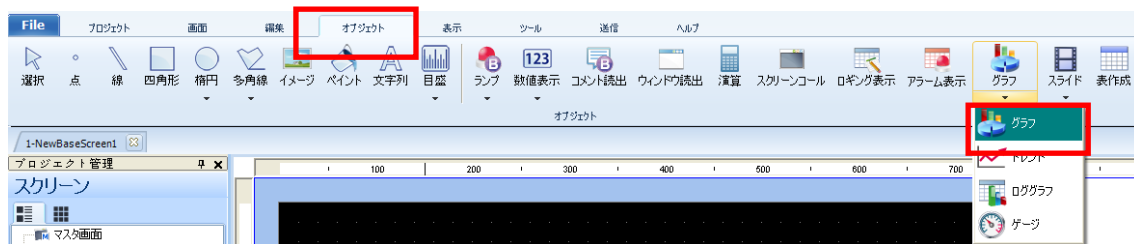
## 2. グラフオブジェクトの作成

詳細は、GX8 Designstudio\_Manual\_Japan.pdf マニュアルの P566[17.1 グラフオブジェクト]を参照

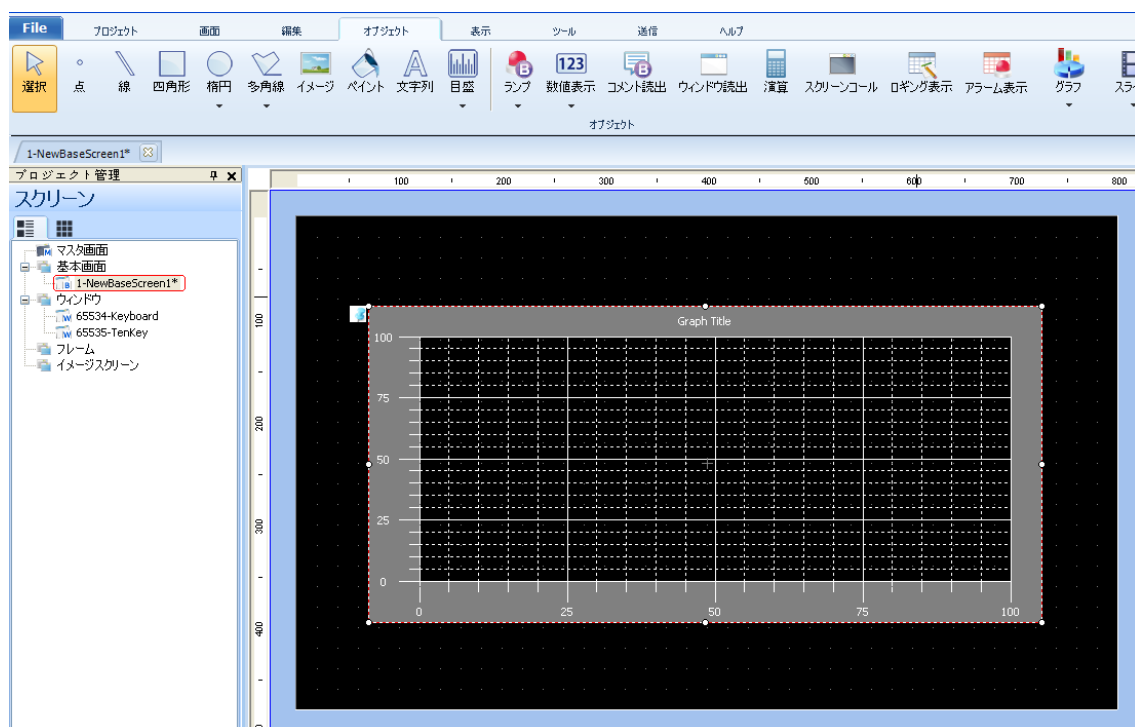
(例)



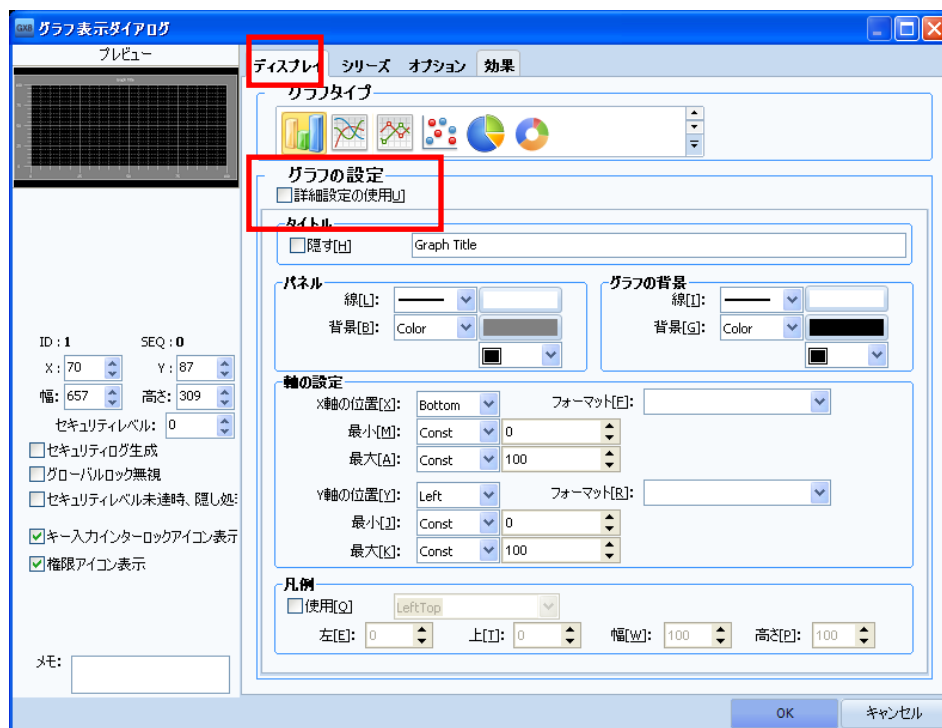
[オブジェクト]タブの[グラフ]—[グラフ]をクリックし、画面に配置します。



配置したグラフをダブルクリックし、[グラフ表示ダイアログ]を表示します。



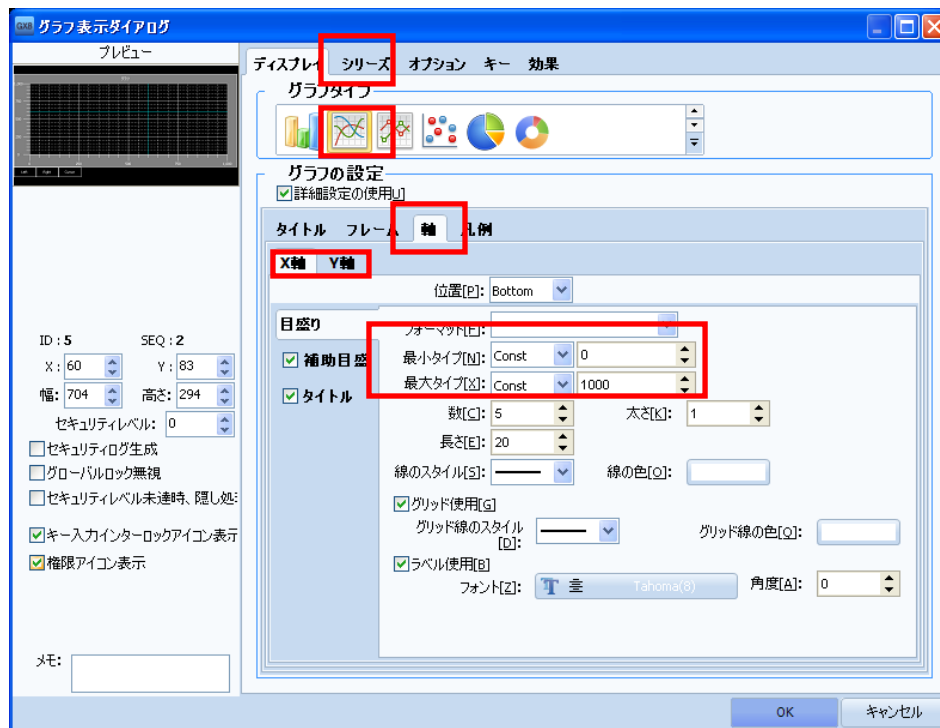
[ディスプレイ]タブに切り替え、[グラフの詳細設定]の[詳細設定の使用]にチェックを入れます。



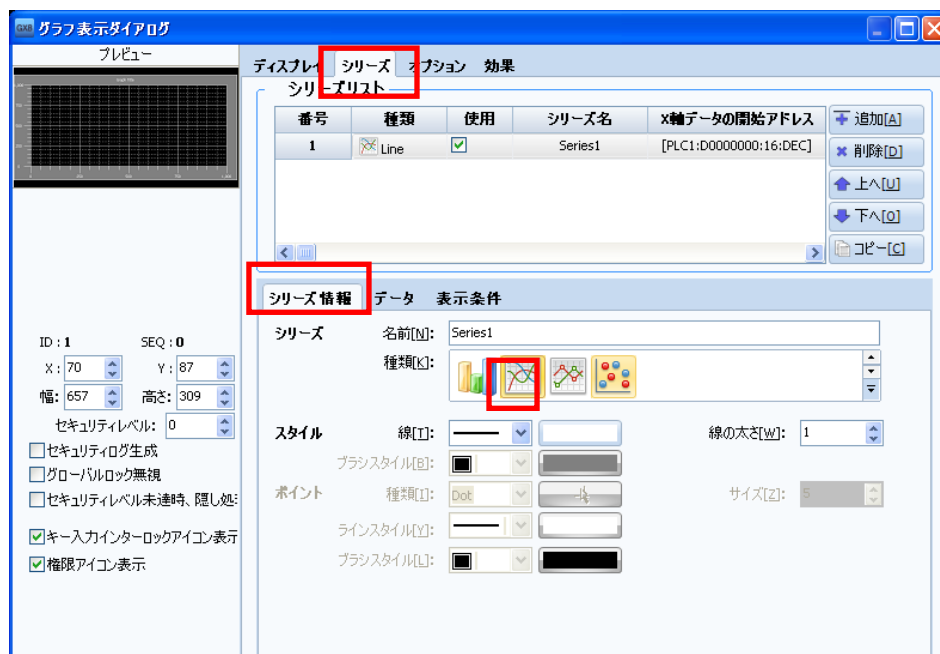
[グラフタイプ]を選択し、[軸]タブに切り替えます。

[X 軸]と[Y 軸]タブで目盛りの設定をします。

「シリーズ」のタブに切り替えます。



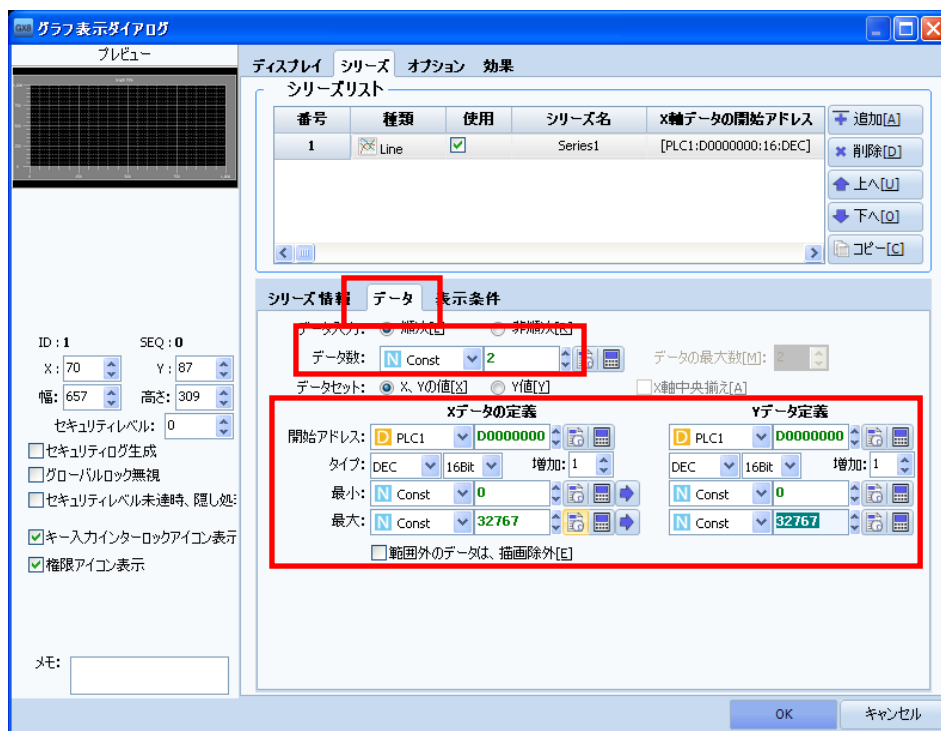
[シリーズ情報]タブで種類を選択します。



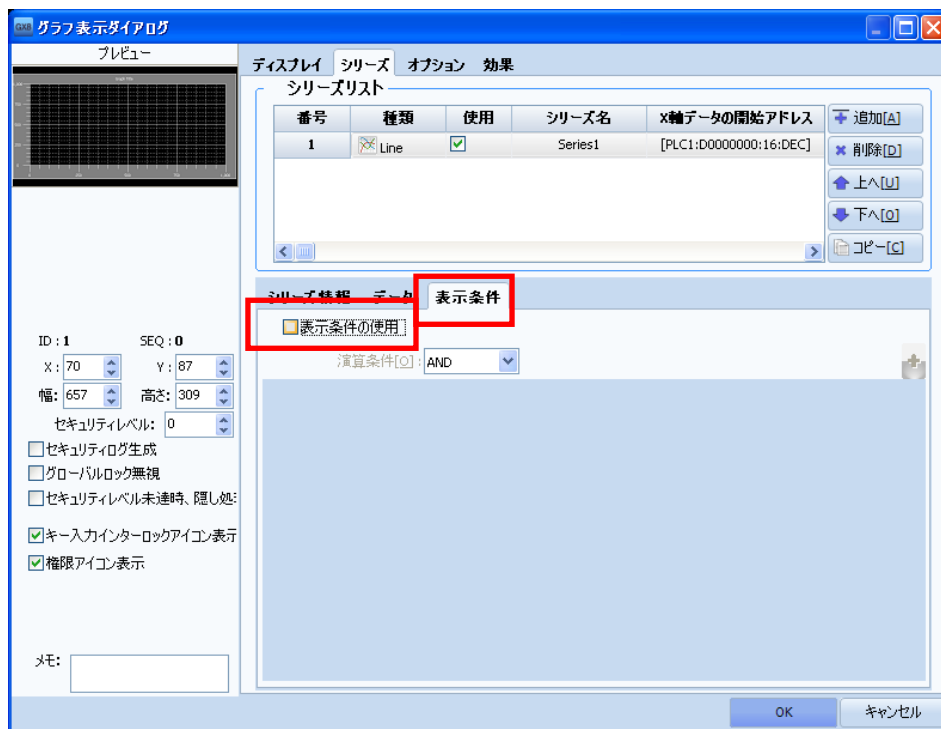
[データ]タブに切り替え、データ数とログデータのデータ範囲を設定します。

※データ数は必ず2以上で設定してください。(作画ソフトのバクのため1では表示されません。)

詳細は、GX8 Designstudio\_Manual\_Japan.pdf マニュアルの P574[(3)シリーズデータ]を参照

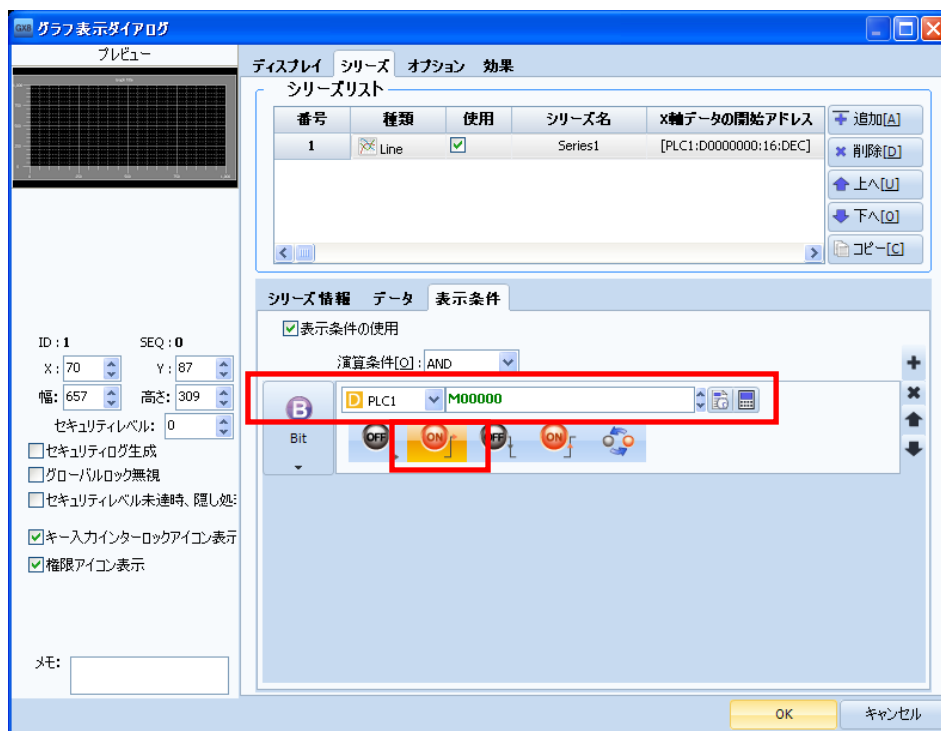


[表示条件]タブに切り替え、[表示条件の使用]にチェックを入れます。

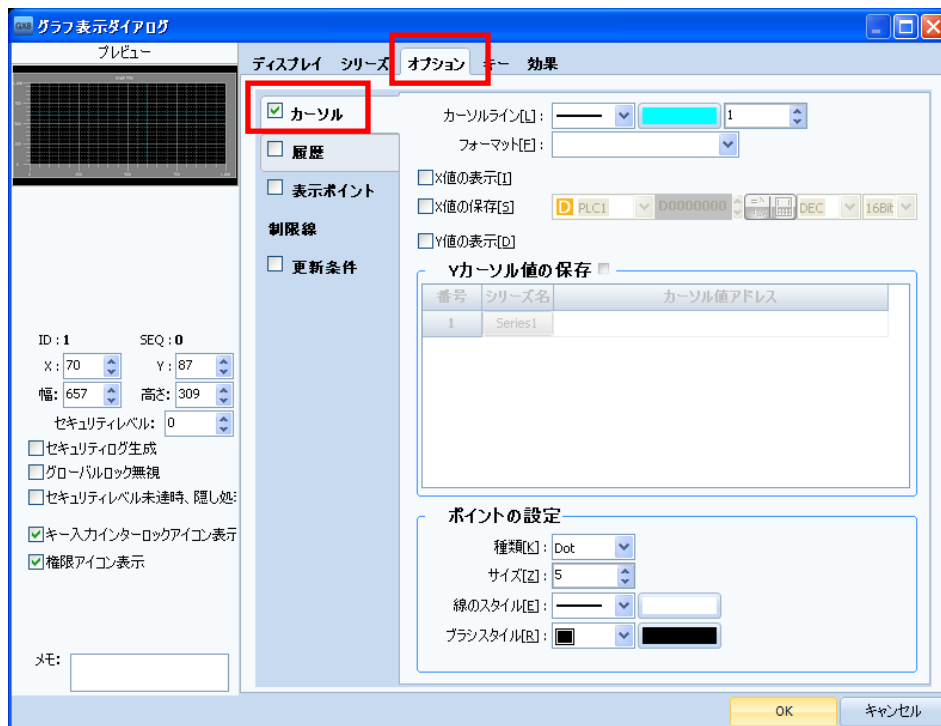


シリーズの表示条件を設定します。

(例)PLC のアドレス「M0」が ON になると表示される。



[オプション]タブではカーソルの設定ができます。

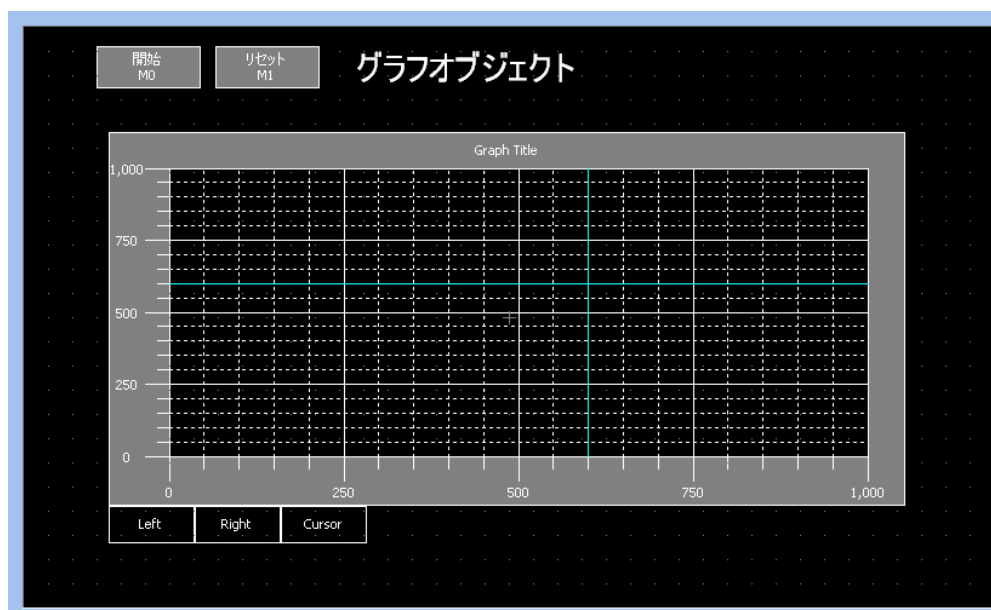
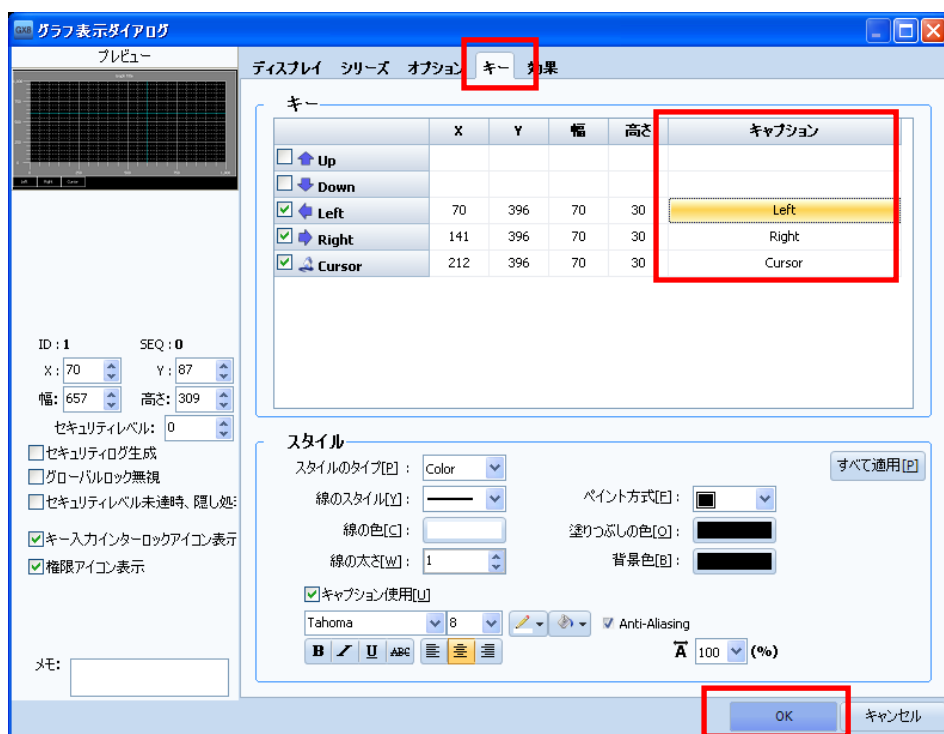


[キー]タブでは、キーを設定できます。

[キャプション]は、ダブルクリックで名称変更ができます。

詳細は、GX8 Designstudio\_Manual\_Japan.pdf マニュアルの P579[(1)キーリスト]を参照

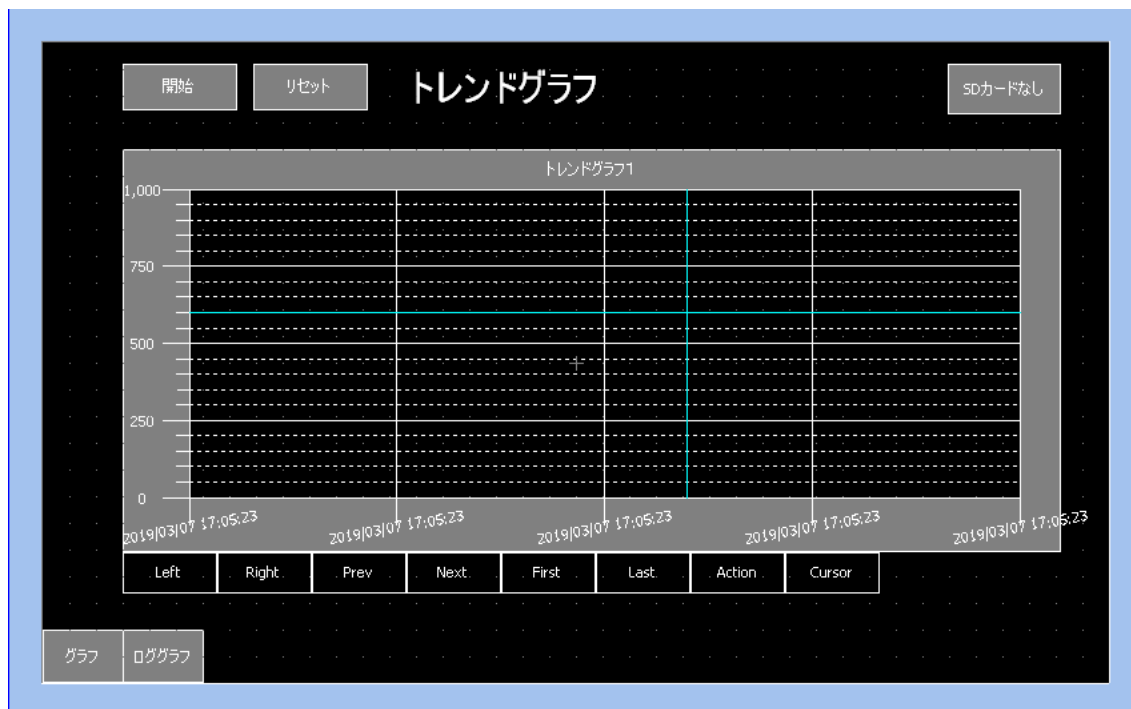
「OK」ボタンをクリックし、画面を閉じます。



### 3. トレンドグラフの作成

詳細は、GX8 Designstudio\_Manual\_Japan.pdf マニュアルの P581[17.2 トレンドオブジェクト]を参照

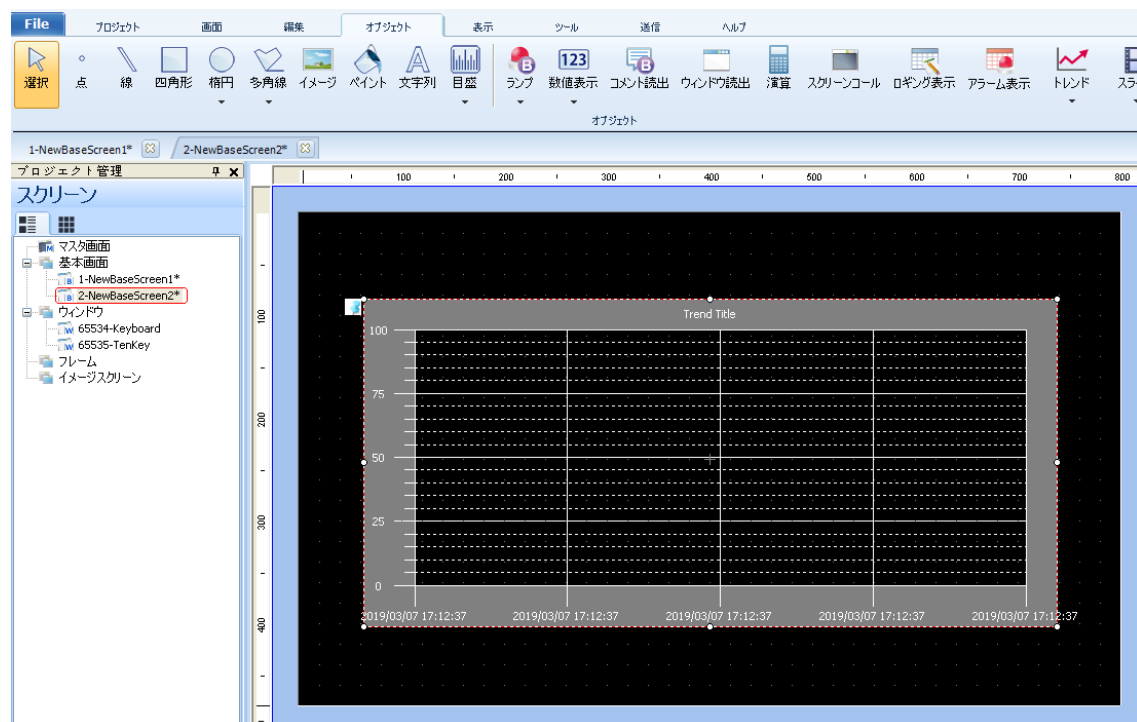
(例)



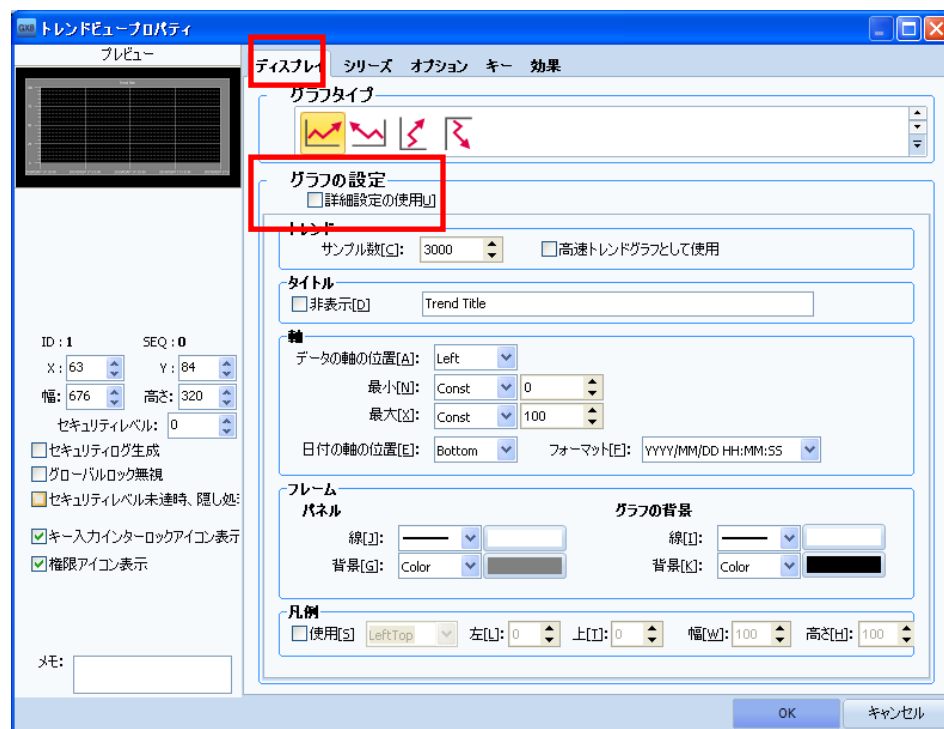
[オブジェクト]タブの[グラフ]—[トレンド]をクリックし、画面に配置します。



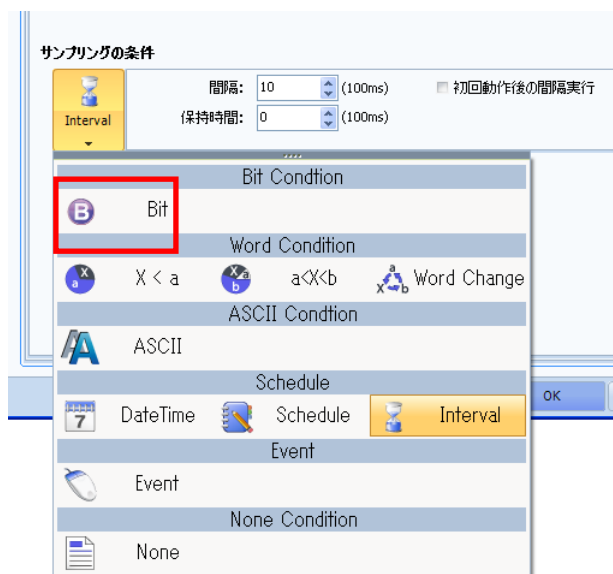
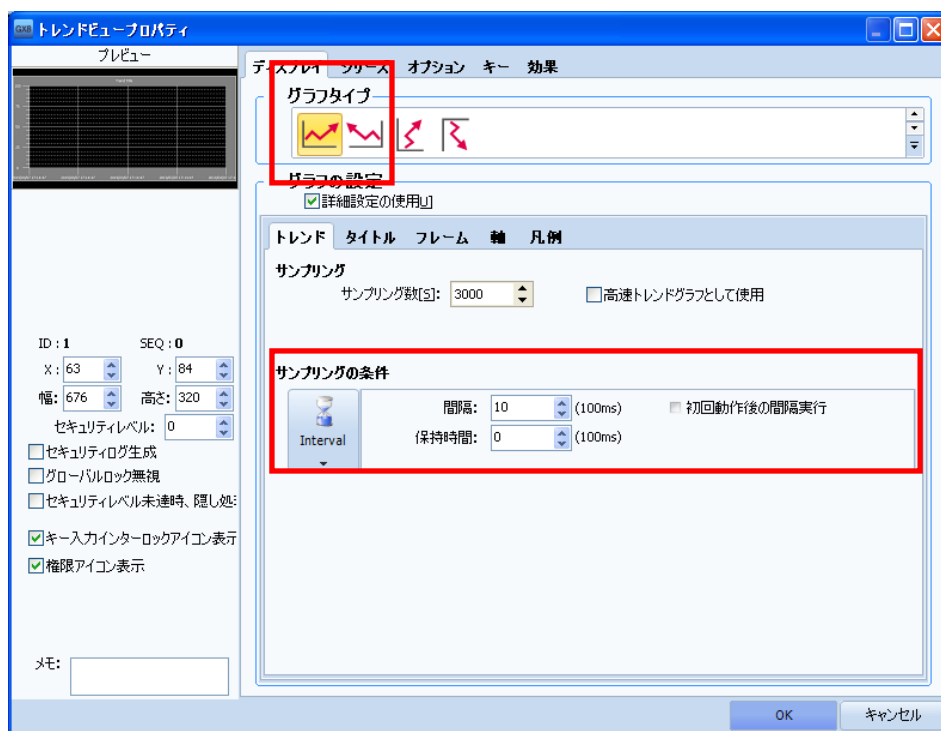
配置したグラフをダブルクリックし、[トレンドビュープロパティ]を表示します。



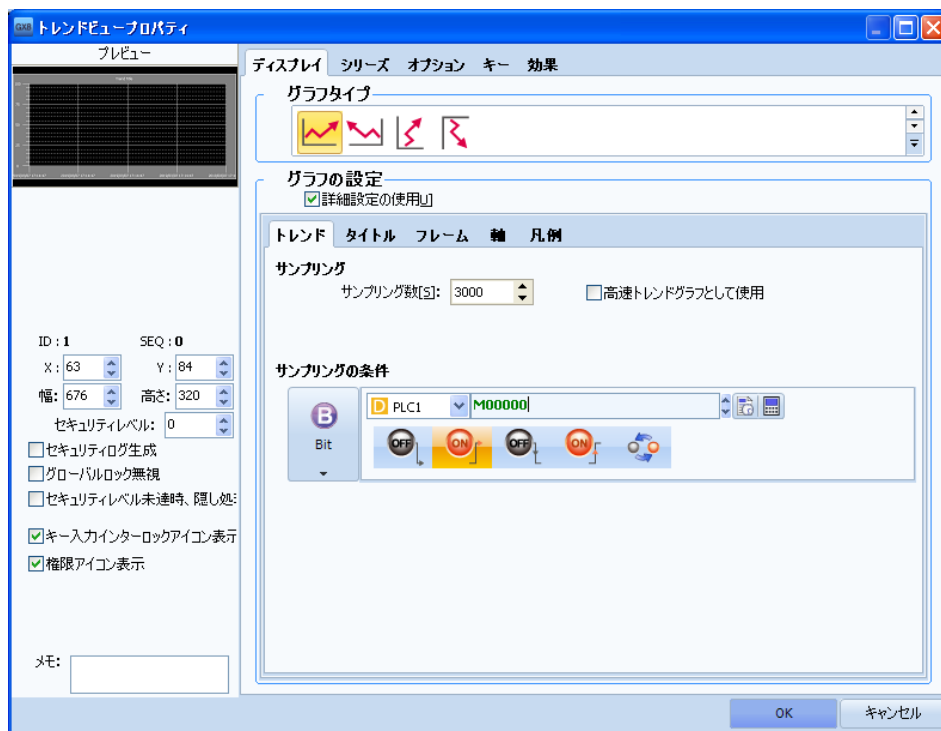
[ディスプレイ]タブに切り替え、[グラフの設定]の[詳細設定の使用]にチェックを入れます。



[グラフタイプ]を選択し、[トレンド]タブにサンプリングの条件を設定します。



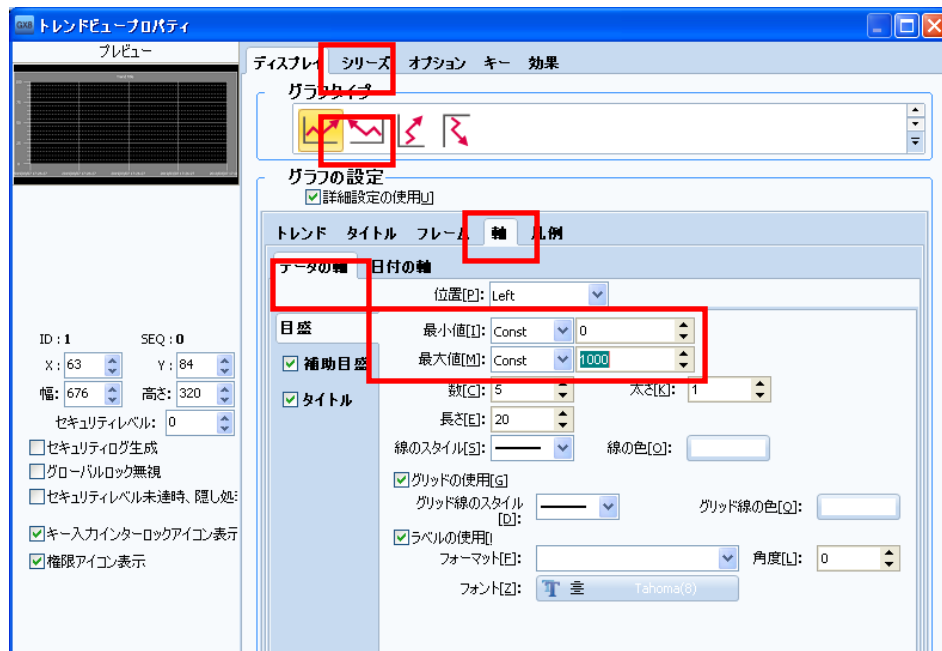
(例)PLC の「M0」が ON のとき、サンプリングを行います。



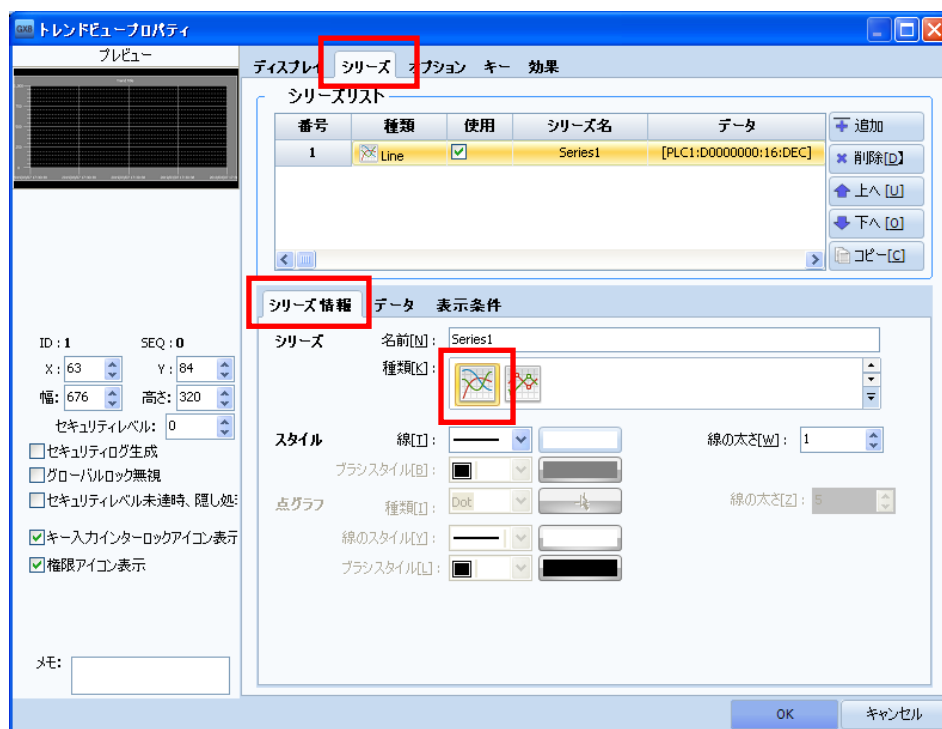
[軸]タブに切り替えます。

[データの軸]タブで目盛りの設定をします。

「シリーズ」のタブに切り替えます。



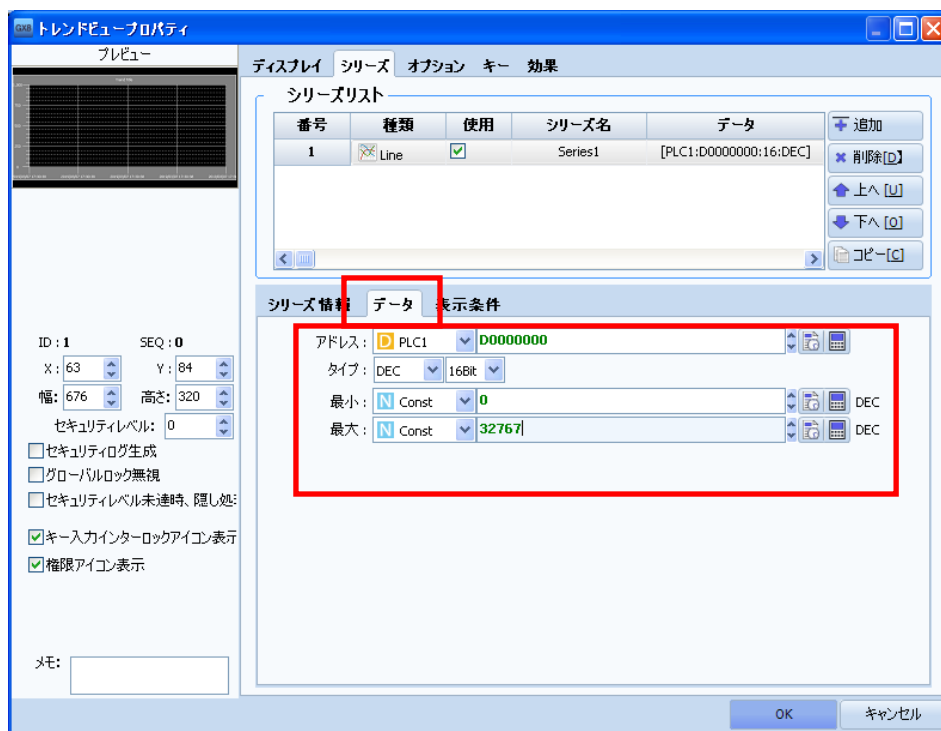
[シリーズ情報]タブで[種類]を選択します。



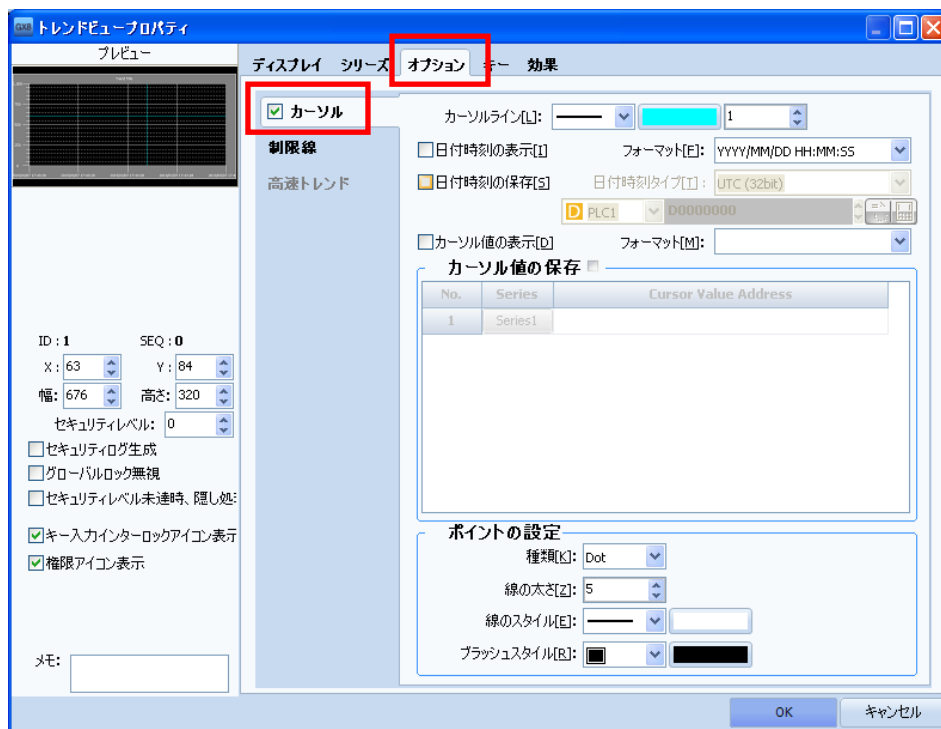
[データ]タブに切り替え、シリーズのログデータアドレスとログデータのデータ範囲を設定します。

詳細は、[GX8 Designstudio\\_Manual\\_Japan.pdf](#) マニュアルの P586[(1)データ]を参照

(例) ログデータアドレス: PLC の「D0」



[オプション]タブではカーソルの設定ができます。

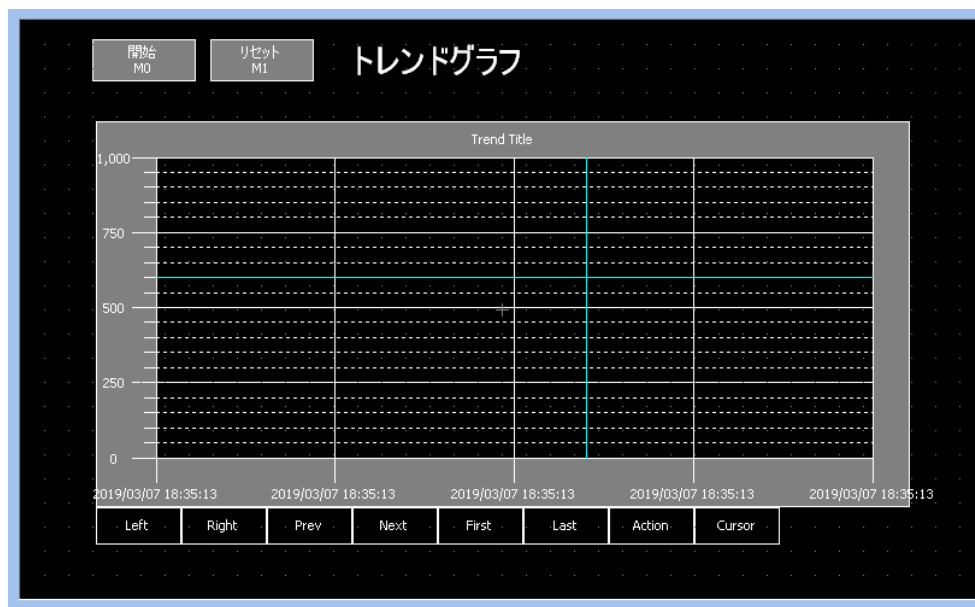
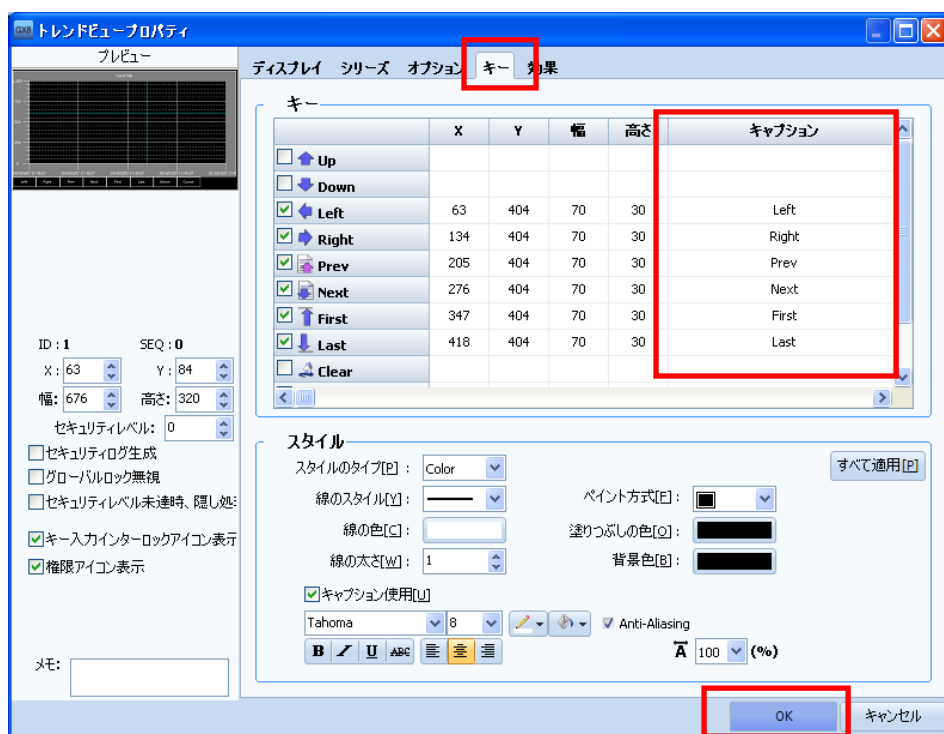


[キー]タブでは、キーを設定できます。

[キャプション]は、ダブルクリックで名称変更ができます。

詳細は、GX8 Designstudio\_Manual\_Japan.pdf マニュアルの P587[17.2.4 キーページ]を参照

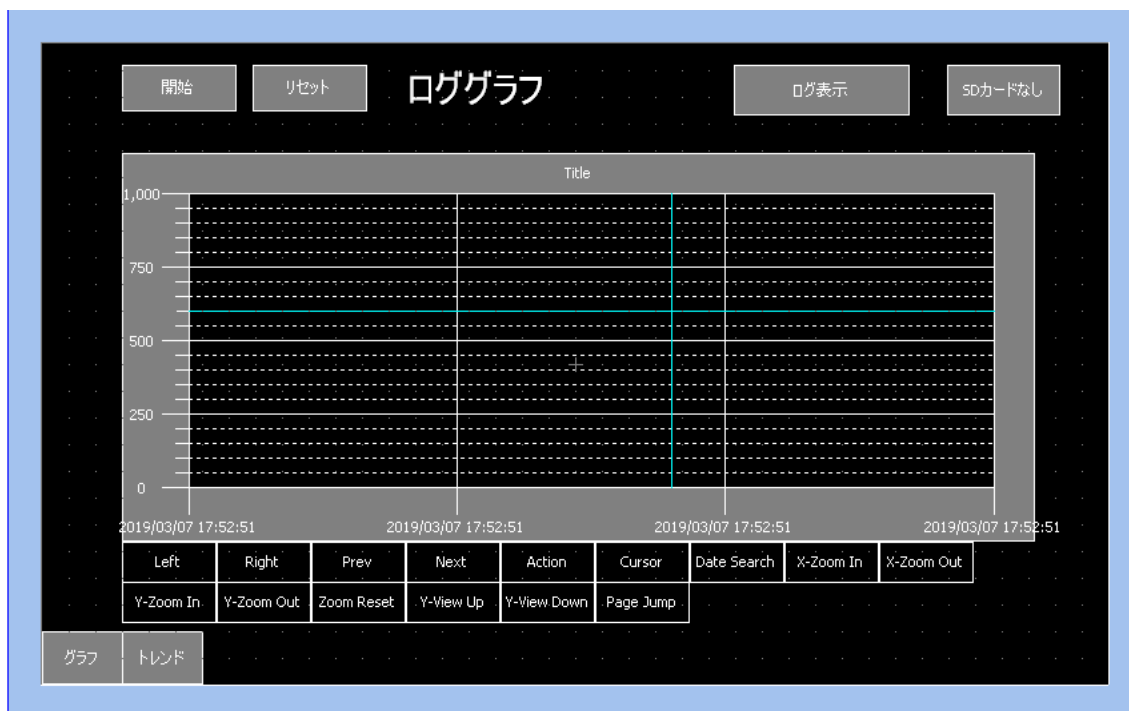
「OK」ボタンをクリックし、画面を閉じます。



#### 4. ロググラフの作成

詳細は、GX8 Designstudio\_Manual\_Japan.pdf マニュアルの P589[17.3 レコードオブジェクト]を参照

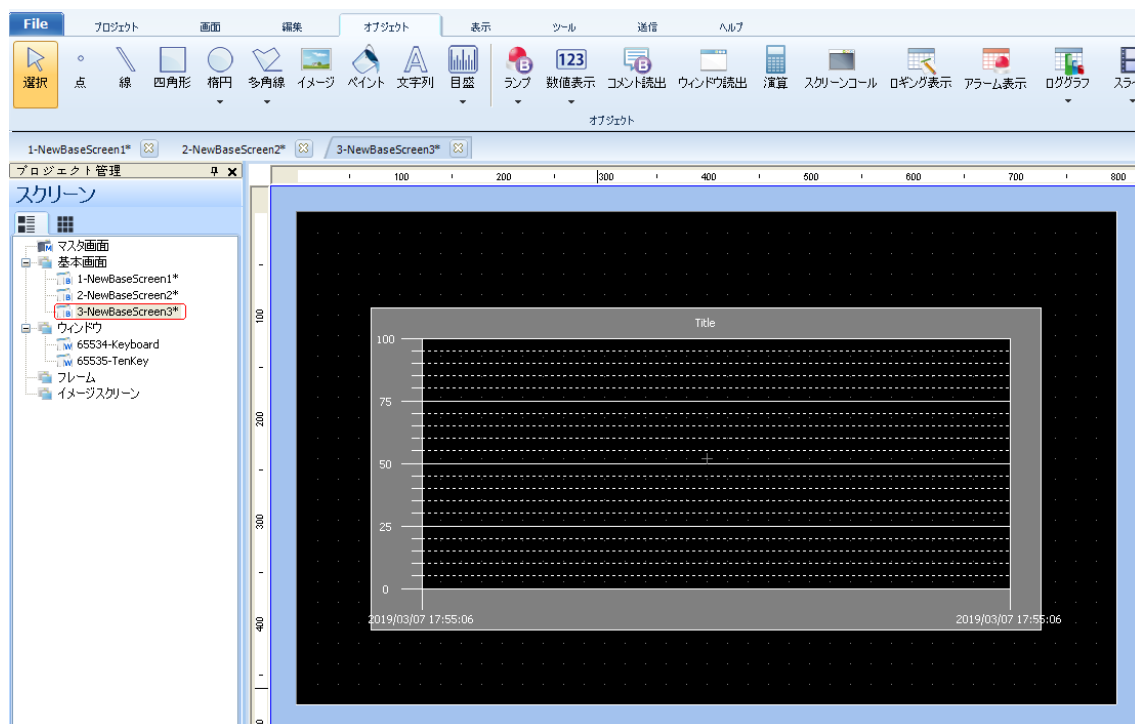
(例)



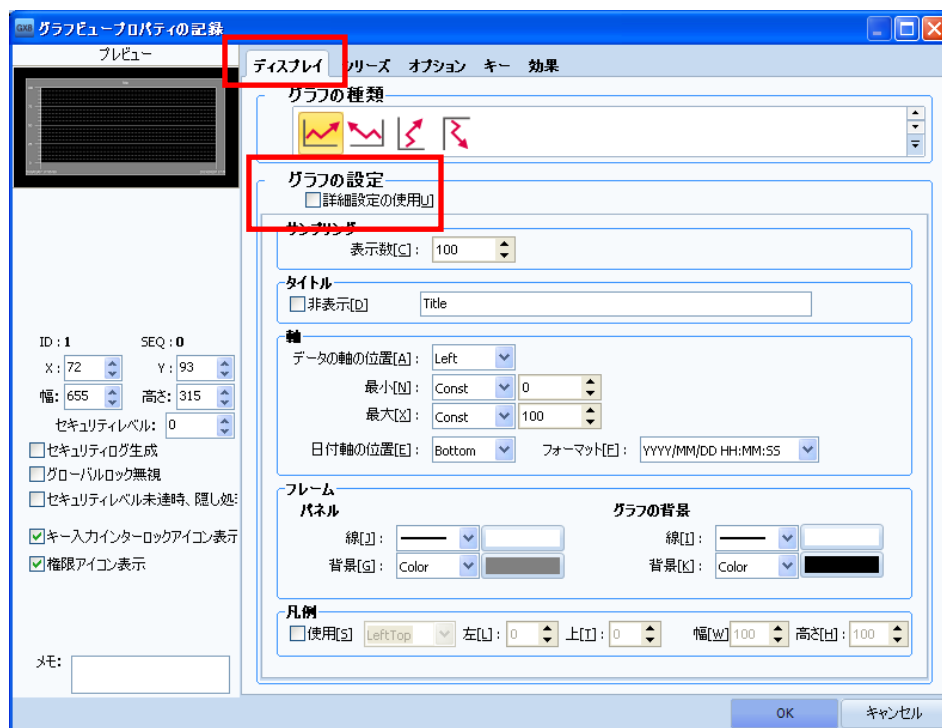
[オブジェクト]タブの[グラフ]—[ロググラフ]をクリックし、画面に配置します。



配置したグラフをダブルクリックし、[グラフビュープロパティの記録]を表示します。



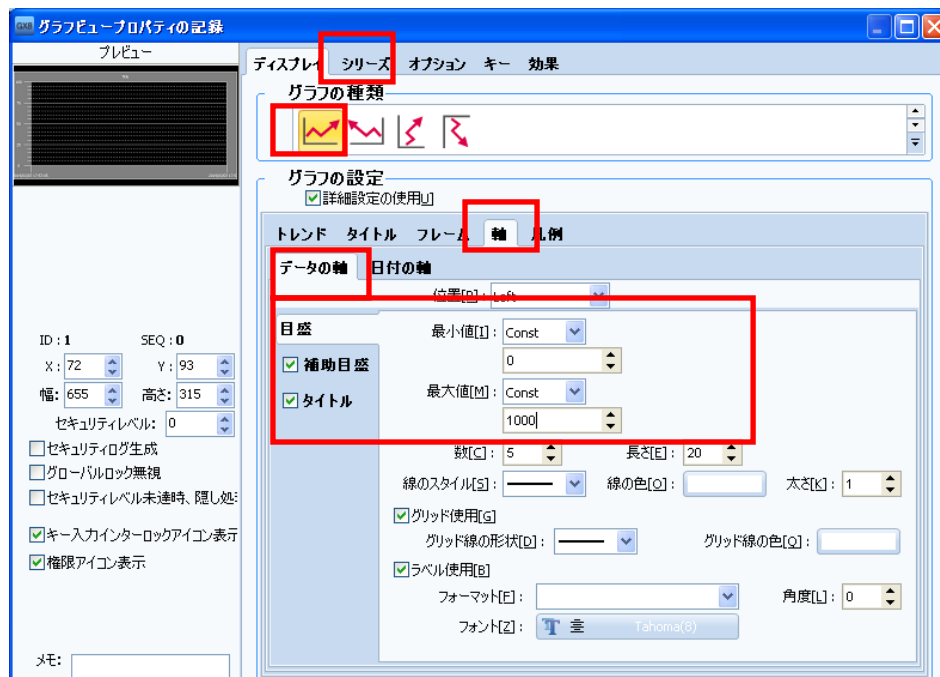
[ディスプレイ]タブに切り替え、[グラフの設定]の[詳細設定の使用]にチェックを入れます。



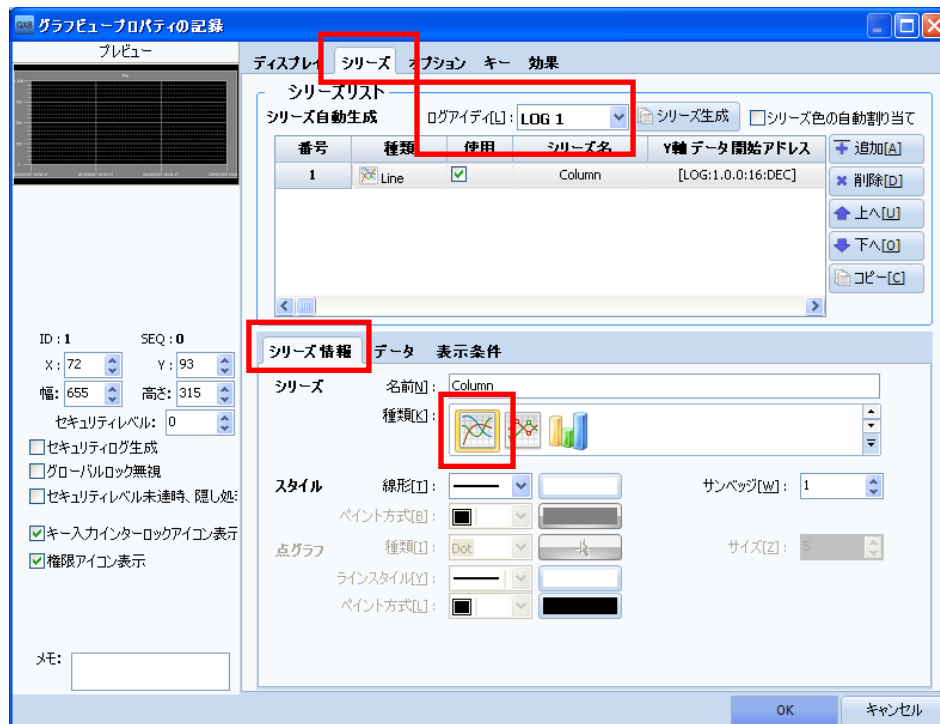
[グラフの種類]を選択し、[軸]タブに切り替えます。

[データの軸]タブで目盛りの設定をします。

「シリーズ」のタブに切り替えます。

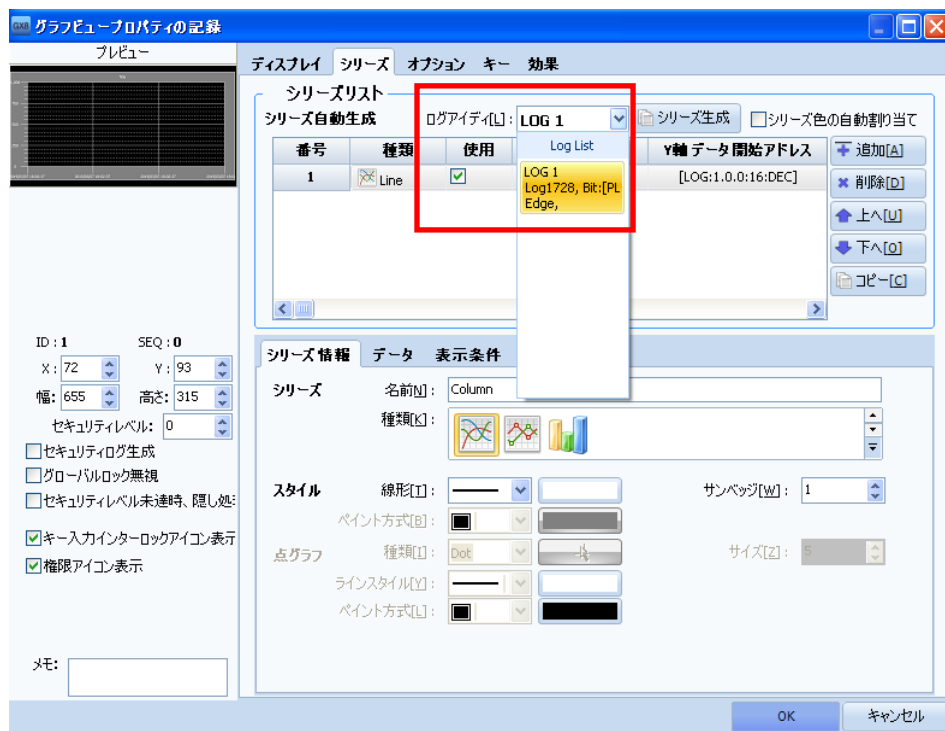


[シリーズ情報]タブで[種類]を選択します。次に[ログアイテム]をクリックします。

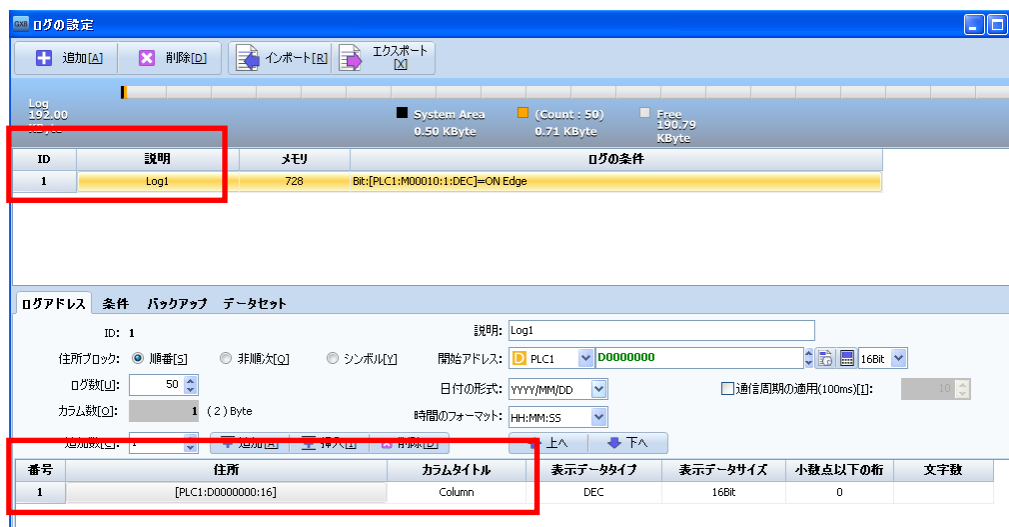


ログアイテムに、作成した該当のログファイルを選択します。

詳細は、GX8 Designstudio\_Manual\_Japan.pdf マニュアルの P591[(1)シリーズリスト]を参照



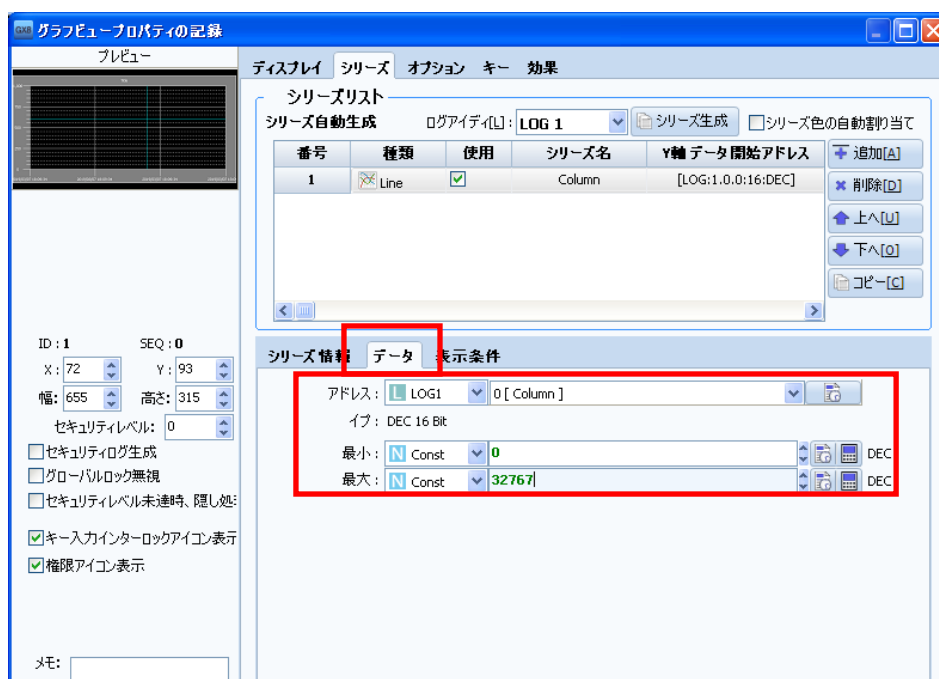
[プロジェクト]タブの[ロギング]で設定した内容を使います。



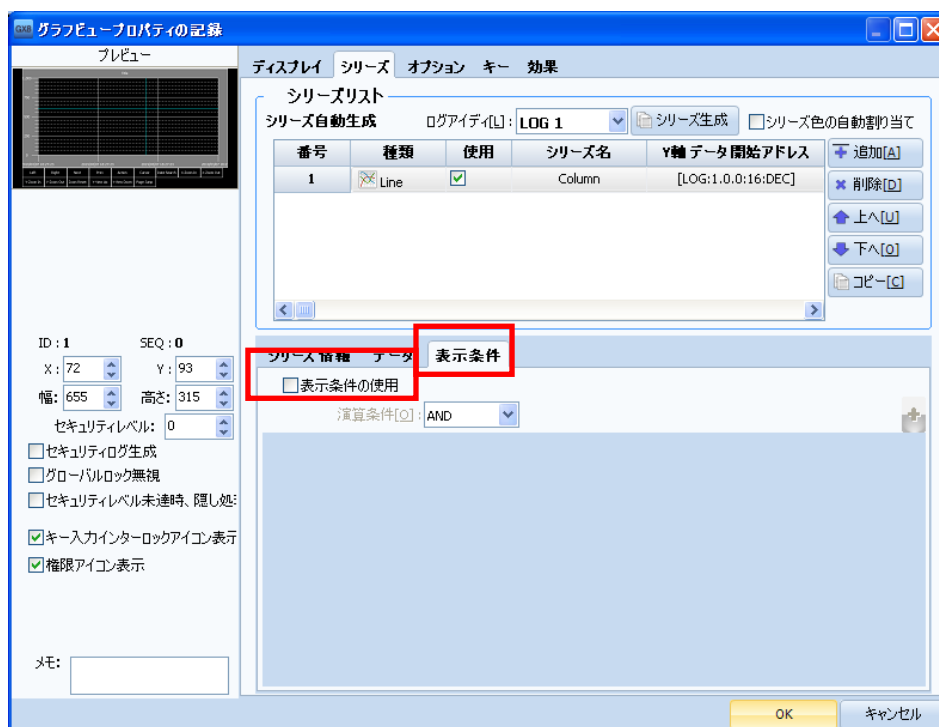
[データ]タブに切り替え、シリーズのログデータアドレスとログデータのデータ範囲を設定します。

詳細は、GX8 Designstudio\_Manual\_Japan.pdf マニュアルの P592[(3)シリーズデータ]を参照

(例)アドレス:作成したログファイル「LOG1」

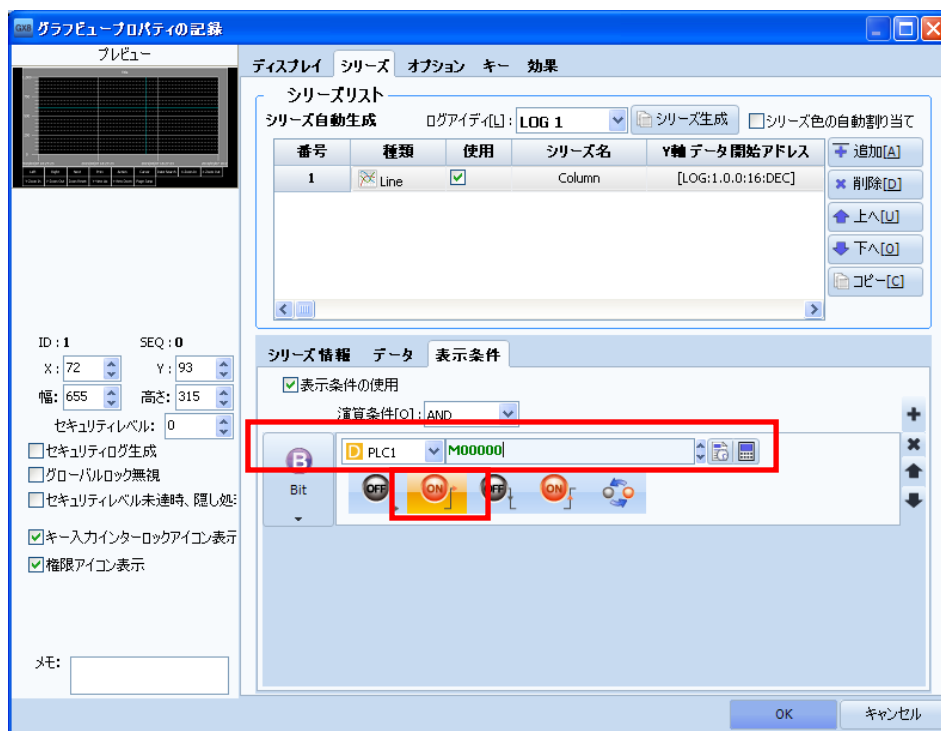


[表示条件]タブに切り替え、[表示条件の使用]にチェックを入れます。

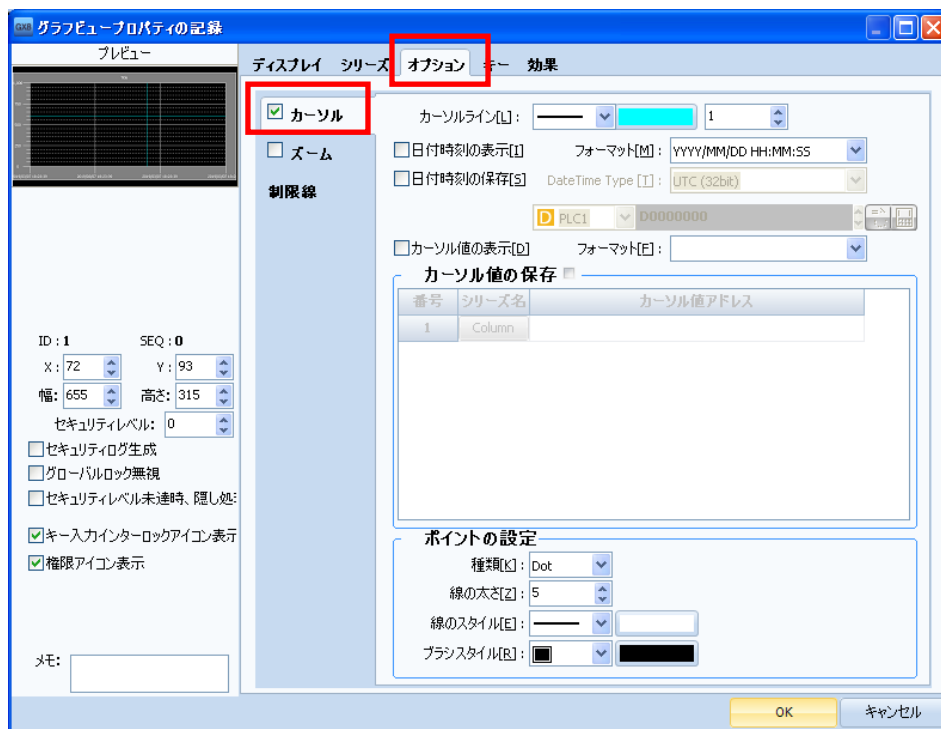


シリーズの表示条件を設定します。

(例)PLC のアドレス「M0」が ON になると表示される。



[オプション]タブではカーソルの設定ができます。

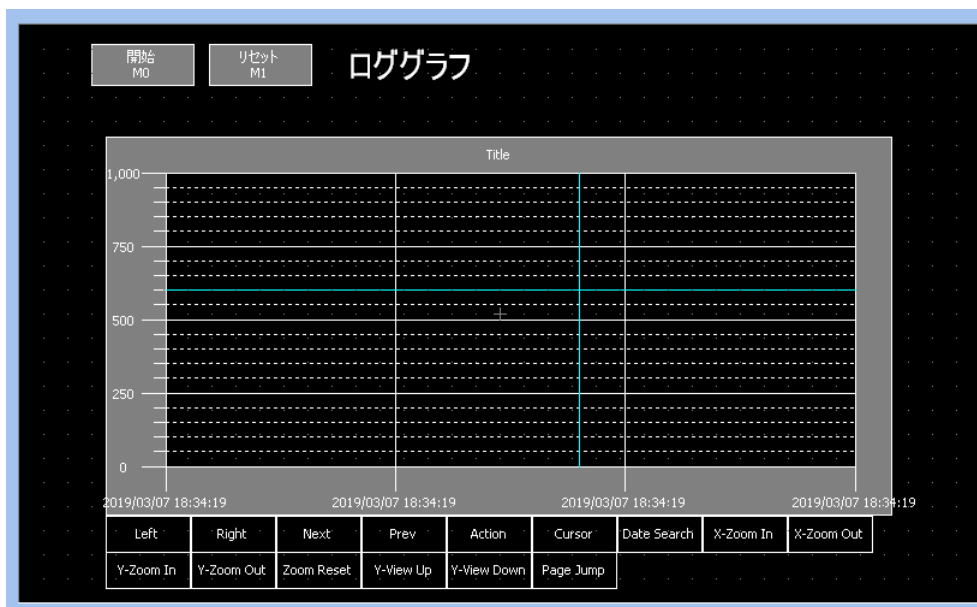
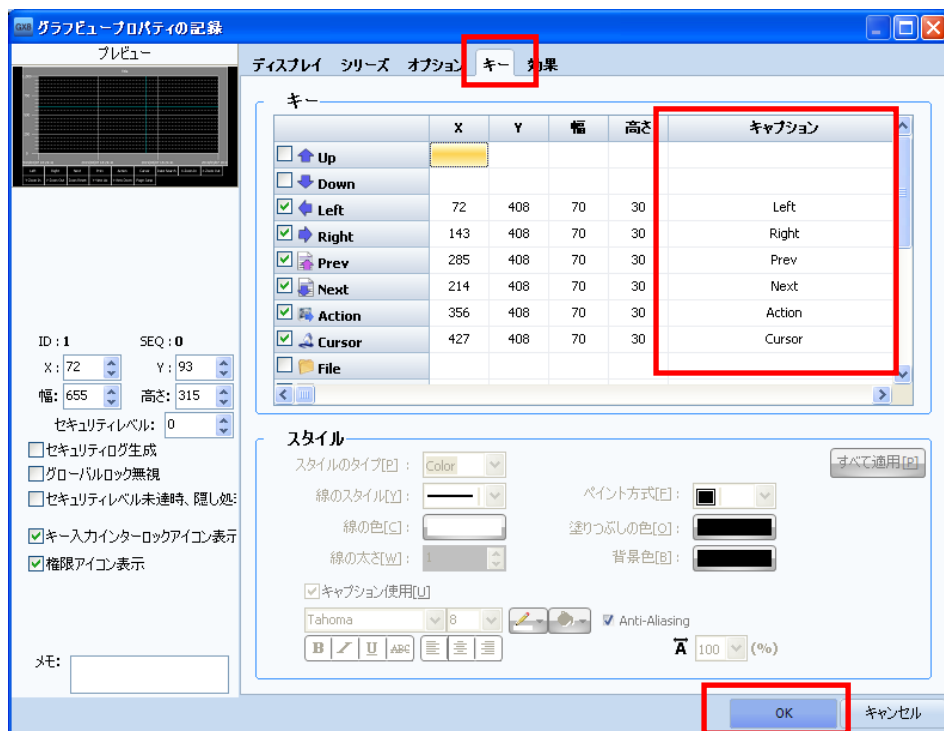


[キー]タブでは、キーを設定できます。

[キャプション]は、ダブルクリックで名称変更ができます。

詳細は、[GX8 Designstudio\\_Manual\\_Japan.pdf](#) マニュアルの P587[17.2.4 キーページ]を参照

「OK」ボタンをクリックし、画面を閉じます。



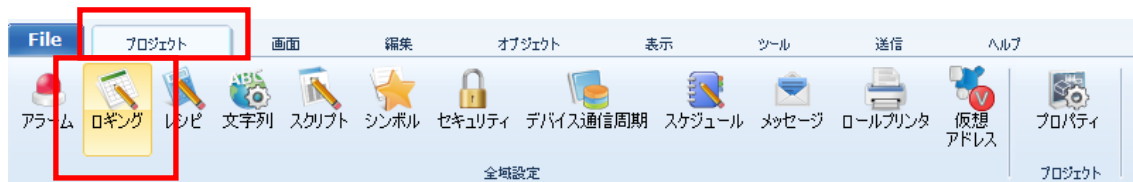
## 5. SD カードへ保存

※SD カードに格納されたログデータは、GX8 メモリエリアから削除されます。

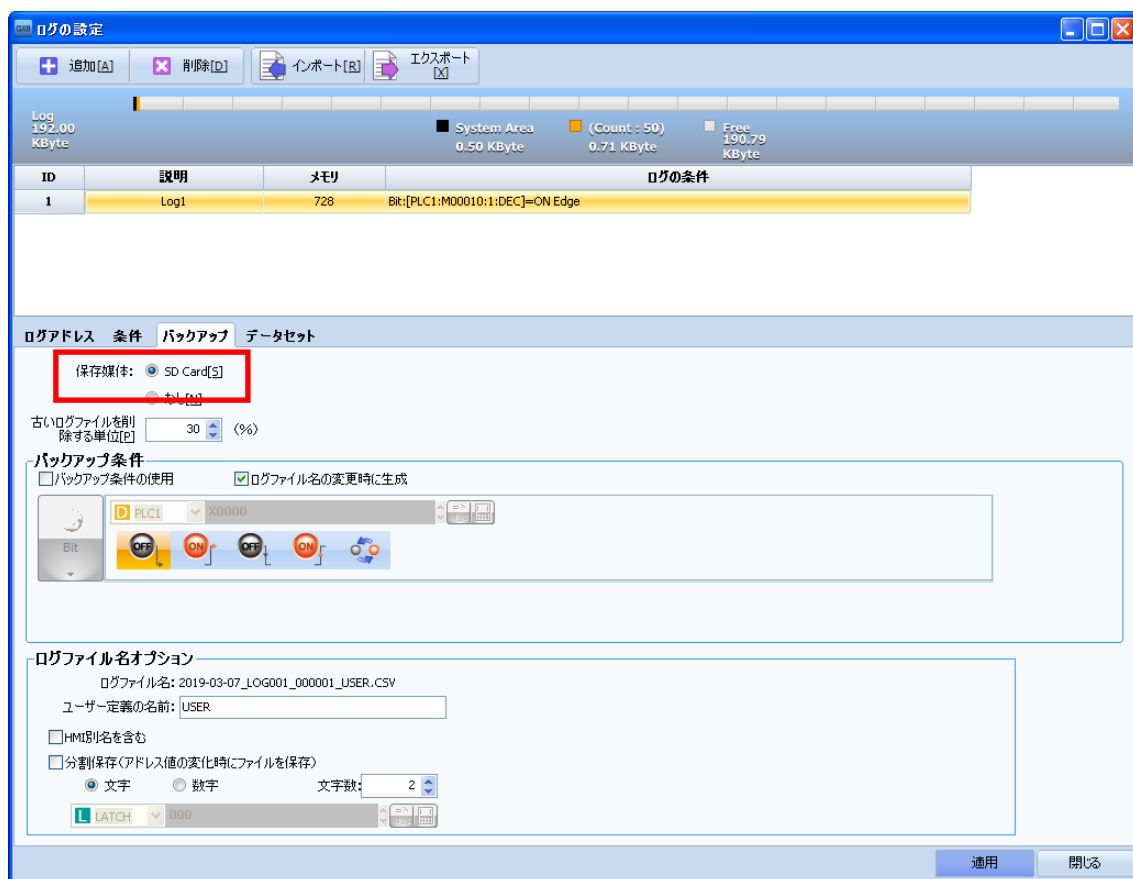
GX8 メモリエリアがいっぱいになると、古いファイルから上書き削除されます。

### 5-1. スイッチを押し、GX8 メモリに保存されたログファイルを SD カードに保存する方法

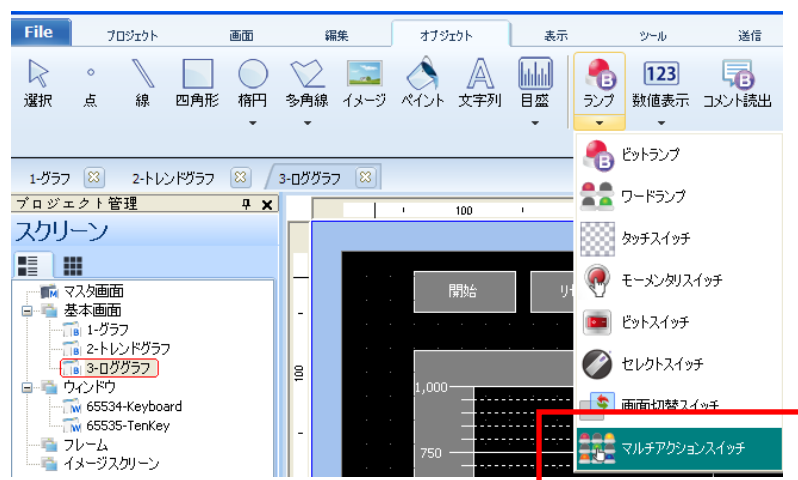
[プロジェクト] タブ に表示を切り替え、左側の [ロギング] をクリックします。



[ログの設定] で、[バックアップ] タブの [保存媒体] を「SD カード」にします。



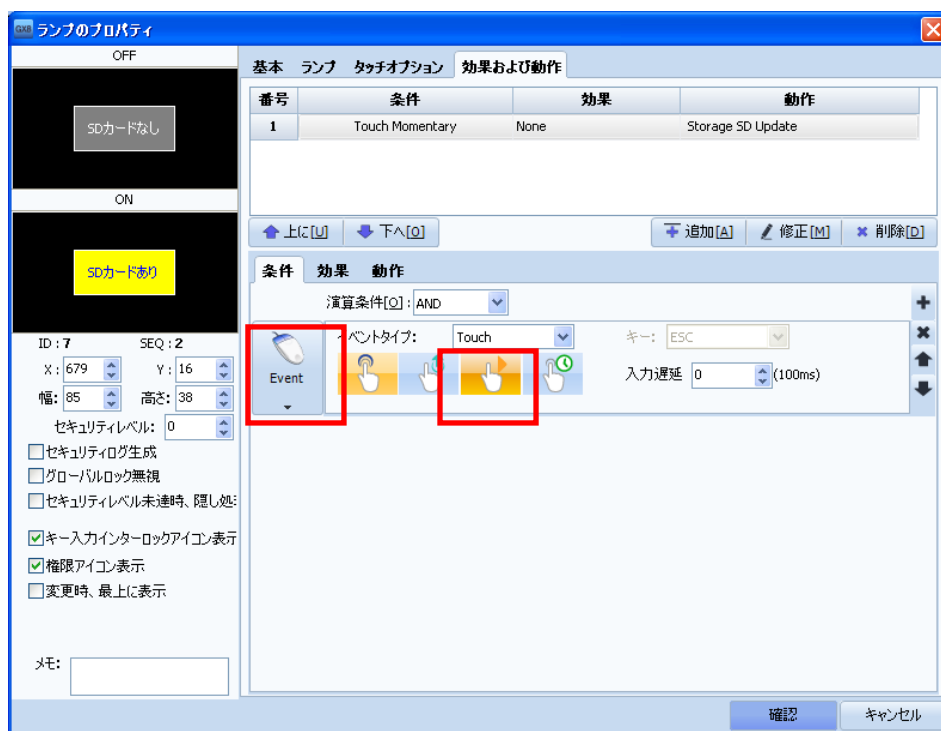
[オブジェクト]タブの[ランプ]—[マルチアクションスイッチ]を画面に配置し、ダブルクリックします。



[ランプのプロパティ]画面の[基本]タブで、  
ランプアドレス:「Special」の「SD\_INSERT」を設定します。  
SD カードが装着時にランプが ON します。

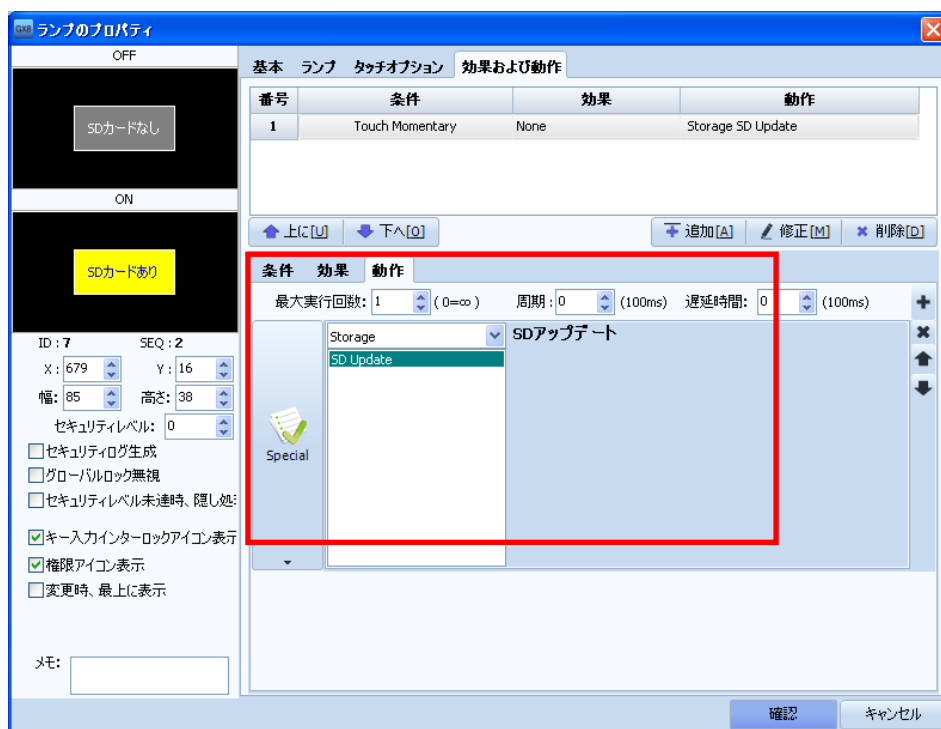


[効果及び動作]タブの[条件]タブで、「Event」のイベントタイプ「モメンタリ」



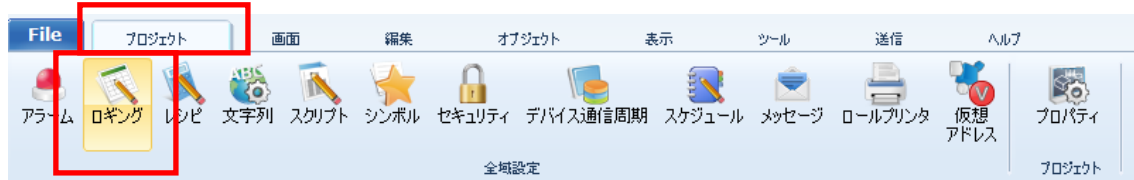
[動作]タブで「Special」の「Storage」―「SD\_Update」を設定します。

スイッチが押されると、GX8 メモリ内のログデータが SD カードに書き込まれます。

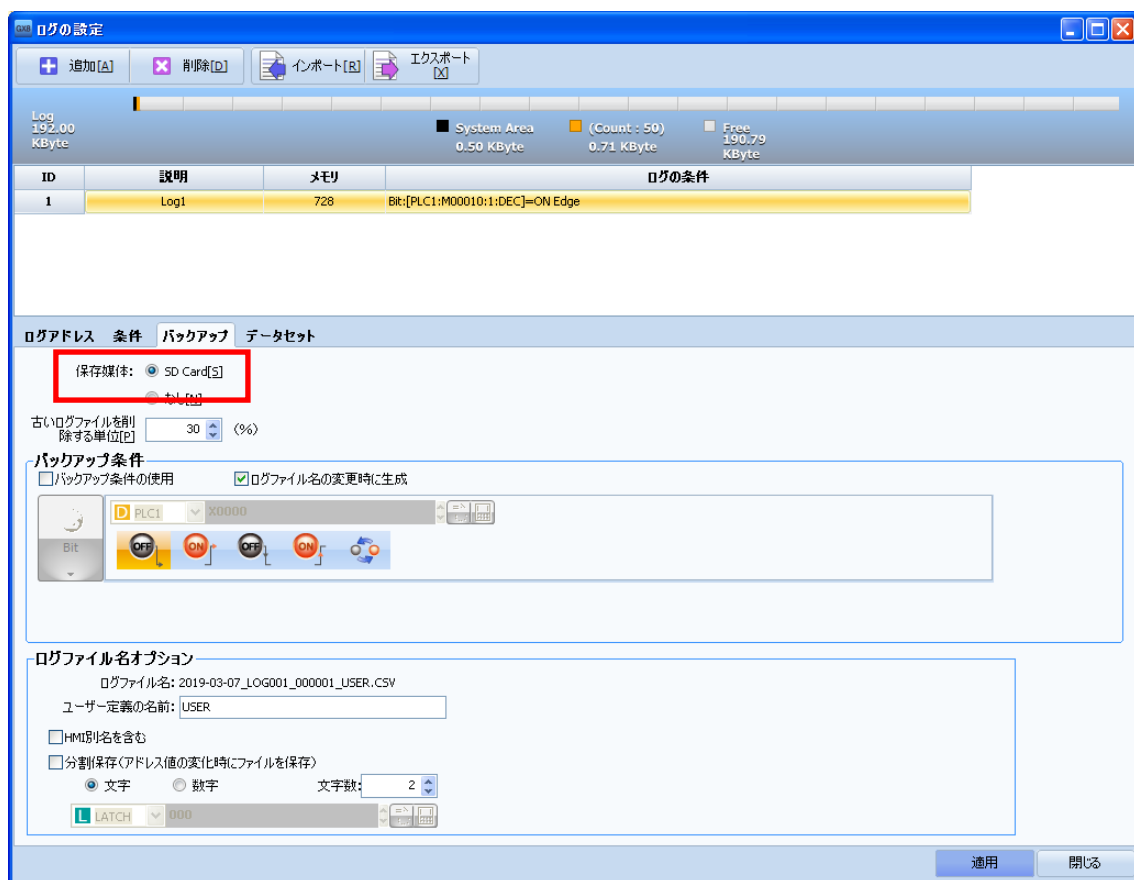


## 5-2. スケジュールにて、GX8 メモリに保存されたログファイルを SD カードに保存する方法

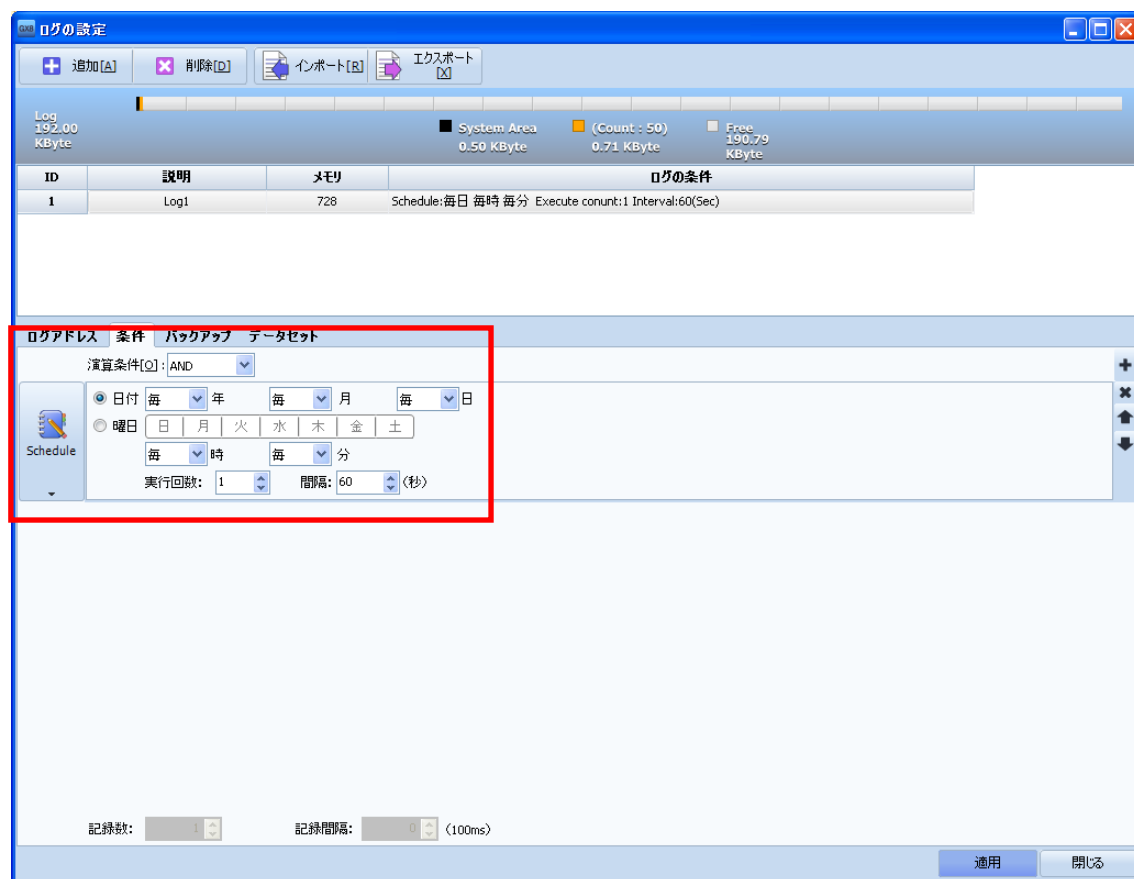
[プロジェクト] タブに表示を切り替え、左側の [ロギング] をクリックします。



[ログの設定] で、[バックアップ] タブの [保存媒体] を「SD カード」にします。



詳細は、GX8 Designstudio\_Manual\_Japan.pdf マニュアルの P161[4.2.2 ログ条件ページ]を参照



## 6. USB メモリへの手動保存

※GX8 メモリ内にあるログファイルをUSB へ保存しても、GX8 メモリ内のログファイルは削除されません。

USB メモリを GX8 に装着します。

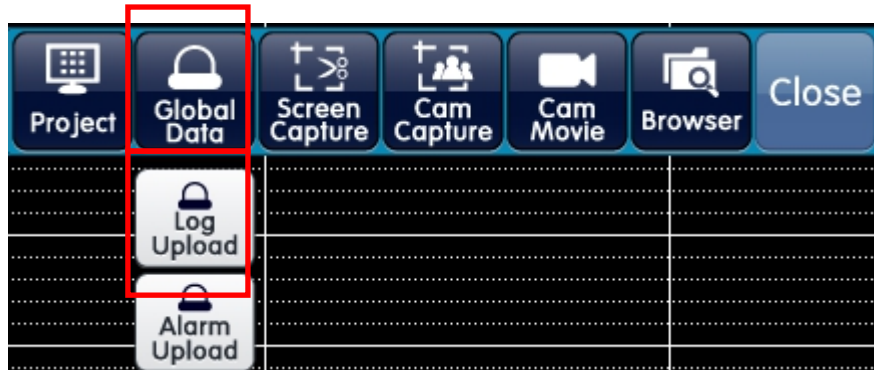
下図のメニューが GX8 本体の画面上に表示されます。



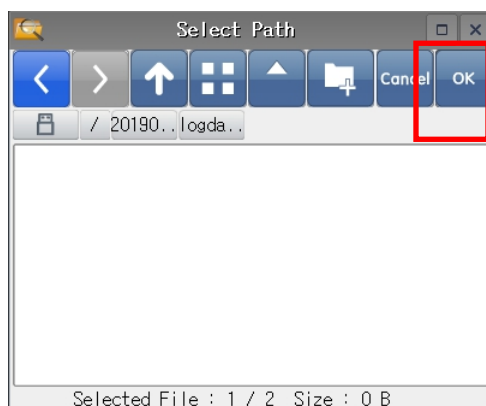
もし、メニューが表示されない場合は、GX8 の画面上部を指でタッチしながら下にさげると、下図メニューが表示されるので、[USB]アイコンをタッチすると、メニューが表示されます。



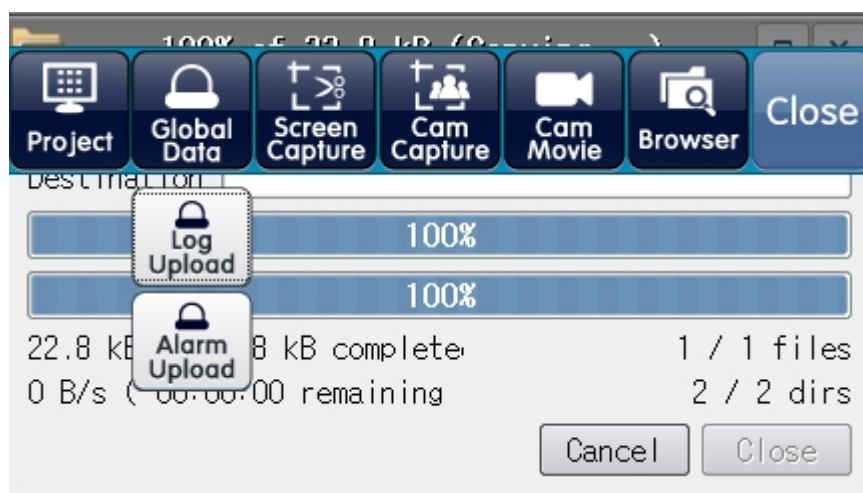
「Global Data」をタッチし、「Log Upload」をタッチします。



USB 内の保存場所を指定し、「OK」をタッチします。



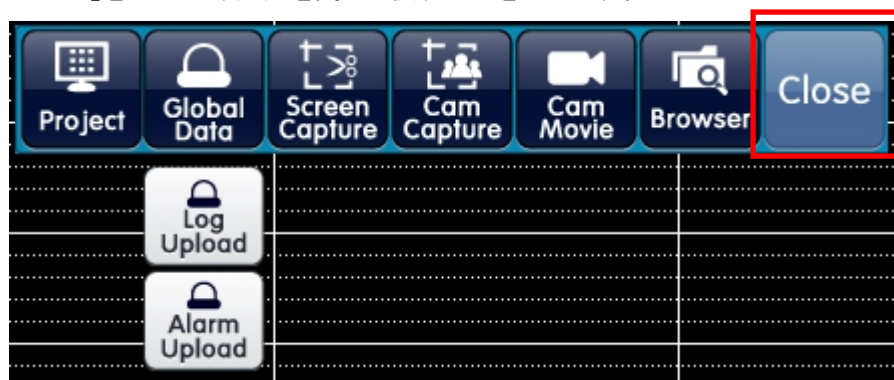
GX8 メモリから USB メモリへログファイルがコピーされます。



USB メモリへ書き込みが終了すると、後ろの画面が消えます。

※ 後ろの画面が消える前に USB メモリを外すと、ファイルが保存されていない場合があります。

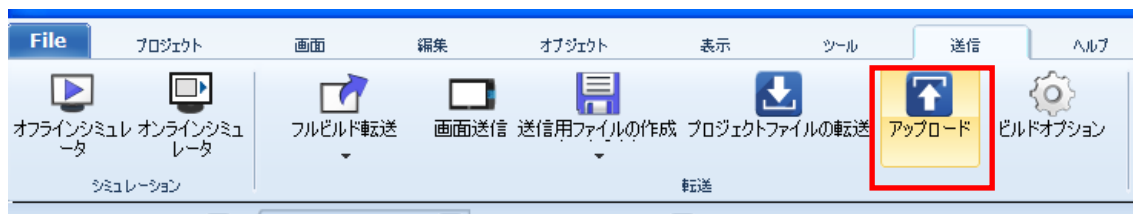
「Close」をタッチし、画面を閉じた後、USB を外します。



## 7. PC への手動保存(ログファイルのアップロード)

※GX8 メモリ内にあるログファイルを PC へアップロードしても、GX8 メモリ内のログファイルは削除されません。

[送信]タブの「アップロード」をクリックします。



[アップロード]画面で[ログ]、[日付情報]、[保存先]を選択した後、「アップロード」ボタンをクリックします。

